

音響振動解析システム

O-Solution DS-5000

ONOSOKKI

わからないが、好きになる
さあ、計測をはじめよう





音響・振動の物理現象は
測定環境を決め、センサーの選定・設置
機器の設定・計測・解析・比較などのプロセスを経て
わかります

小野測器の音響振動解析システムは
計測の難しさ、ミスへの恐れを軽減し

どこでも、すぐに、かんたんに
精度の高い
計測・解析を行うための
使いやすさを追求しました

**わからないが、好きになる
さあ、計測をはじめよう**



O-Solution



DS-5000

計測と解析ソフトウェアを統合

O-Solutionは、「計測モード」と「解析モード」を搭載しています。1クリックでモードを切り替えることができるので、実験・計測から収録後の解析までスムーズに行うことができ、操作ミスを低減できます。

計測モード



DS-5000と接続し、振動や騒音の時系列データの収録、周波数解析やトラッキング解析をリアルタイムに行います。加振器やインパルスハンマーを用いた固有振動数の測定や、回転機器の計測に適しています。



すぐに、詳細な解析へ



さらに、高精度な計測へ

解析モード

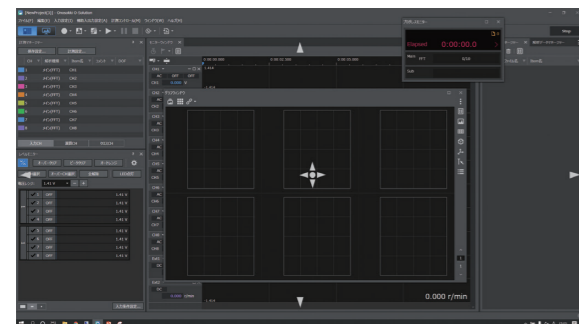


収録した時系列データの編集・解析を行います。大容量の時系列データや異なるフォーマットのデータを同時表示したり、重ねたりなど自由自在に操作できます。リアルタイム計測の後で、より詳細な解析を行いたい時や過渡現象の解析に有用です。



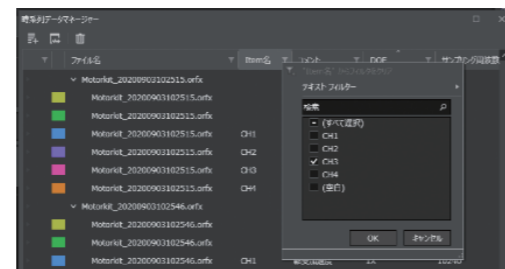
画面レイアウトを自由自在に

ドッキングウィンドウで各種ウィンドウの表示位置をお好みのレイアウトに変更することができます。



データ管理を簡単に

O-Solutionは計測・解析条件と取得データをプロジェクトで一括管理します。データマネージャーでデータリストが一覧できたり、検索・並べ替え機能で多条件・多チャンネルの比較が簡単にできます。



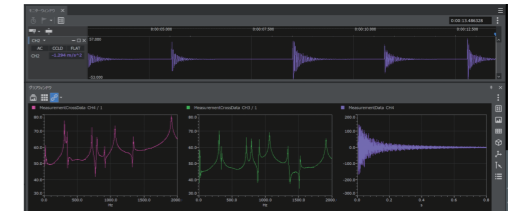
特長

計測モード



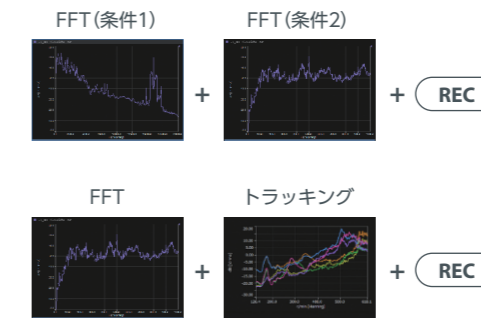
波形が見える安心感

時間波形(10秒間)を表示するモニターウィンドウを新たに搭載。時間波形の様子を見ながら設定・計測することができます。

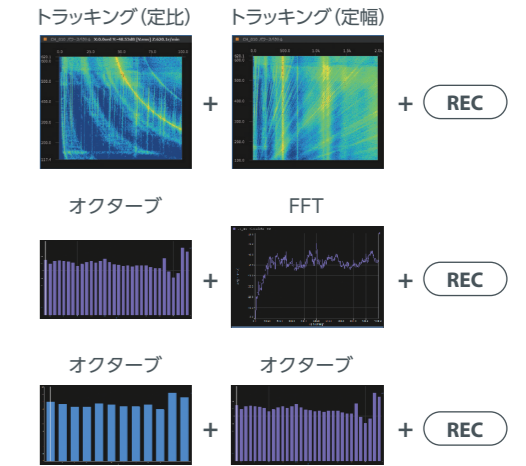


同時解析で作業時間を短縮

収録しながら、2つ同時解析が可能です。



※以下の組み合わせによる同時解析はできません。
・オクターブ+トラッキング+REC

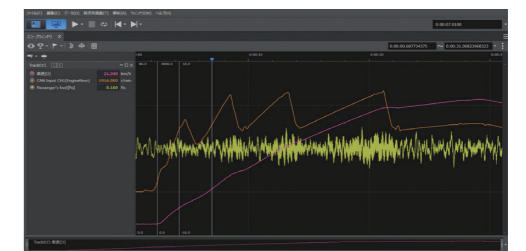
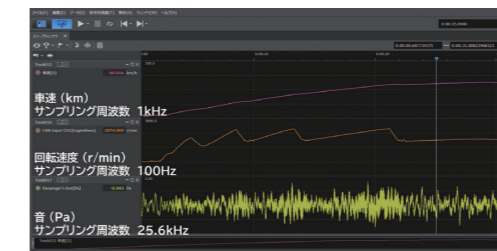


解析モード

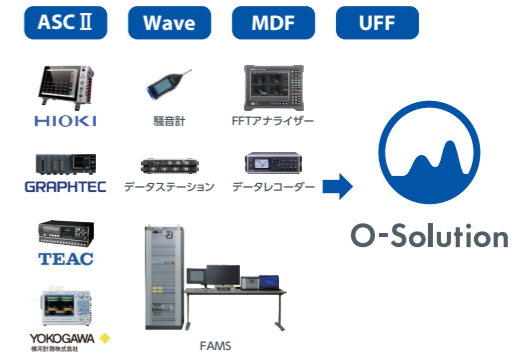


データ比較で物理現象の掴みが簡単に

物理量(振動、回転速度、トルク、温度etc)・フォーマット・サンプリング周波数の異なるデータでも「同時表示・並べる・重ねる」が自由自在にできます。



ロガーメーカーのフォーマットに対応



音・振動・トルク・ひずみ・回転など、異なるサンプリング周波数のデータ(10 μHz~100 GHz)を同時表示、重ね合わせができます。各社メーカーのデータロガーで収録したデータの読み込みが可能です。

O-Solution 機能紹介

O-Solutionは、基本機能 OS-5100 プラットフォームをベースに、用途に合わせてオプション機能を追加できます。ビューアー機能 O-Solution Liteは、ライセンスフリーで誰でも使用できます。

ビューアー	基本機能	オプション			
O-Solution Lite	プラットフォーム OS-5100	デジタルフィルター機能 OS-0521	音質評価機能 OS-0525	音圧法音響パワーレベル OS-0541	外部コントロール機能 OS-0510
		FFT 解析機能 OS-0522	変動音解析機能 OS-0526	放射音計測オプション (情報技術装置) OS-0542	ハードウェア接続機能 OS-0512
		トラッキング解析機能 OS-0523	時間周波数解析機能 OS-0527		
		オクターブ解析機能 OS-0524	統計解析機能 OS-0531		
			動画再生機能 OS-0532		

ビューアー : O-Solution Lite

現場計測を無事に完了したい、結果を同じ画面で共有したい。

どなたでもご使用できるライセンスフリーのビューアー機能を有しています。

実験者は、計測/解析したプロジェクトファイルを渡すことで実験結果や解析結果を誰とでも共有できます。実験依頼者は、O-Solution Lite を使って音声再生や解析データを実験者と同じ画面で表示できるため、詳細に結果を確認できます。実験者は結果をすぐに共有することで安心して現場作業を完了できます。ビューアー機能は、O-Solutionをインストールする事で利用できます。



また、O-Solution LiteとDS-5000を用いて時間波形を収録することができます。各社ロガーメーカーのバイナリデータをインポートし、CSVデータに変換することも可能です。



プラットフォーム : OS-5100

計測・解析の時間や手間を大幅短縮したい

計測や解析の前に必要な処理ツールを取り揃えています。また波形の切り出し、補正、検索など編集機能も充実しています。

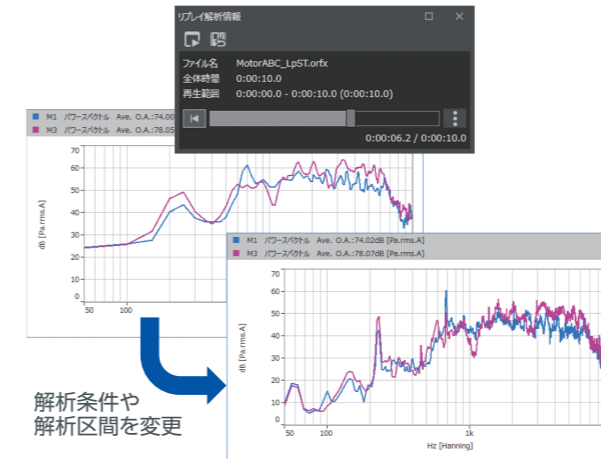
時間軸前処理

AD変換後の時間波形にフィルター等の演算処理を行う機能です。別途、フィルターアンプの用意は不要です。

デジタルフィルター	LPF、HPF、BPF、A特性、C特性 ・LPF、HPF、BPFは全て6次のバターワースフィルター BPFも6次のフィルター係数のため、傾斜は-36 dB/octではなく、-18 dB/octになります。
絶対値	<input type="radio"/>
時間軸微積分	1階微分、2階微分、1重積分、2重積分
積分前DC除去機能	<input type="radio"/>

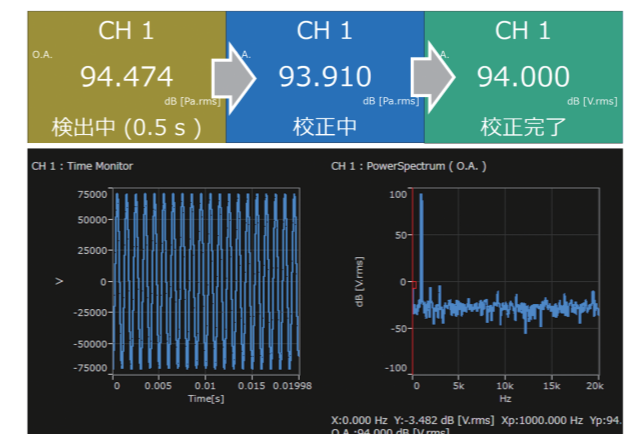
リプレイ解析

計測モードの状態、収録した時系列データを再解析できます。解析モードに移行する前に予備解析を繰り返し行うことができ、解析条件決めの作業効率が向上します。



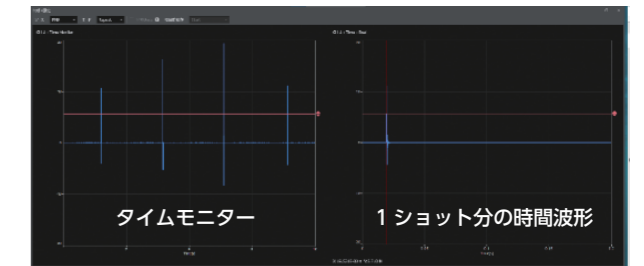
自動校正機能

ソフトウェアが自動で校正信号を検出して校正します。多チャンネルを校正する作業時間が短縮できます。



トリガー機能

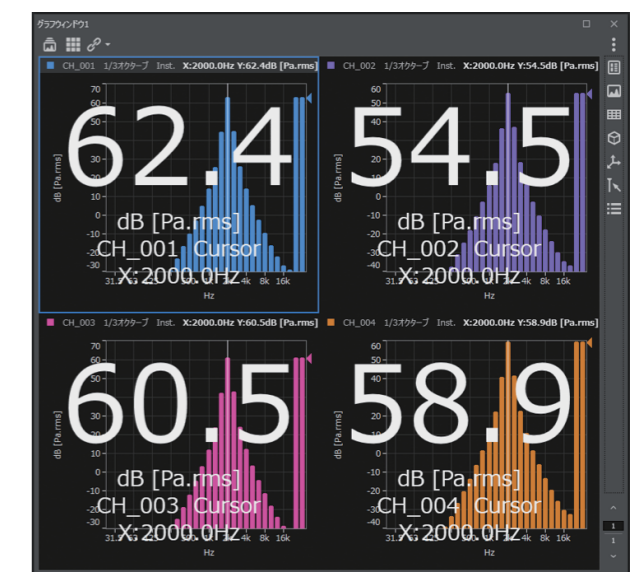
トリガー信号を使用して収録や計測のスタート、ストップをする際に便利な機能を取り揃えています。設定画面はタイムモニターとFFT解析1ショット分の時間波形が表示され、トリガー位置を直感的に設定できます。



ソース	(計測)内部、外部、レベル (解析)Item
モード	Repeat、OneShot
動作	スタート、ストップ スタート&ストップ
その他搭載機能	・ダブルハンマーキャンセル ・平均Undo ・プレコーディング ・収録中にトリガー機能を用いてデータの取得が可能 ・表示機能(タイムモニター及び時間波形)

数値拡大機能

計測値を大きく表示し、現場でも分かりやすく数値を確認できます。



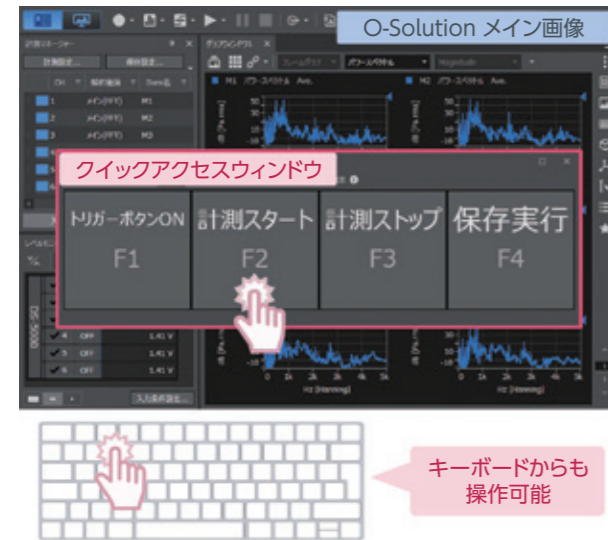
プラットフォーム：OS-5100

決められた計測条件の試験効率を上げたい

定型試験のような決まった計測方法が複数ある場合に、効率よく操作できます。

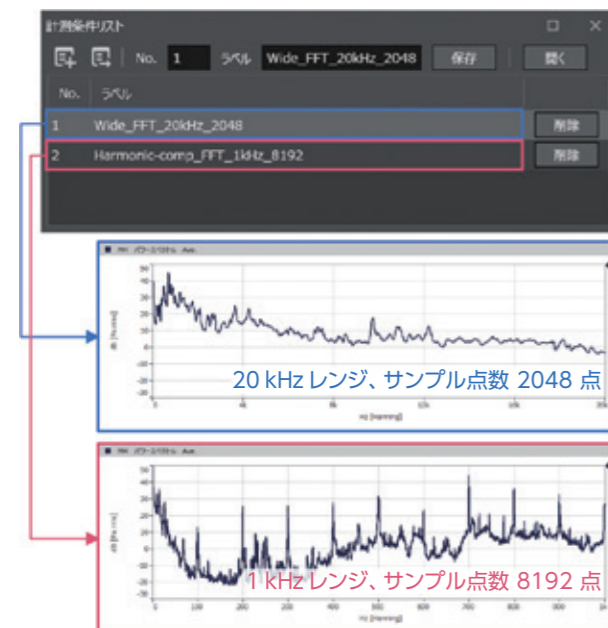
クイックアクセスウィンドウ

トリガー開始、計測開始などよく使う操作を、大きなショートカットボタンとして画面上に表示できます。定型の試験向けにカスタマイズでき、自動車走行試験や現場測定でも操作性が向上します。ボタンにはキーボードのショートカットキー登録も可能です。また外部コントロール機能(OS-0510)があれば、繰り返し操作を一つのボタンに割り当てることが可能です。



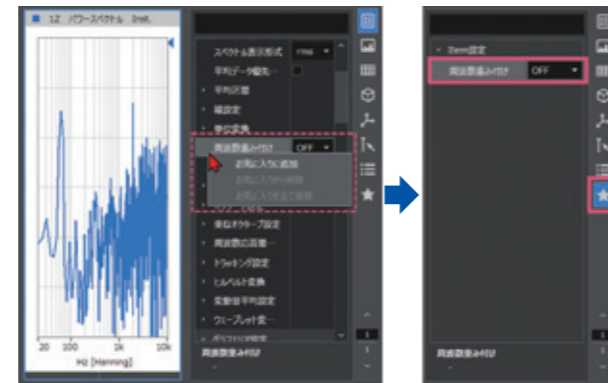
計測条件リスト・解析条件リスト

予めリストに登録した計測条件を1クリックで切り替えられます。定型試験のような決まった計測方法が複数ある場合に、手間なく切り替えができることで設定ミスの防止と作業効率の向上ができます。後解析の解析条件も同様に複数条件を1クリックで切り替えられます。



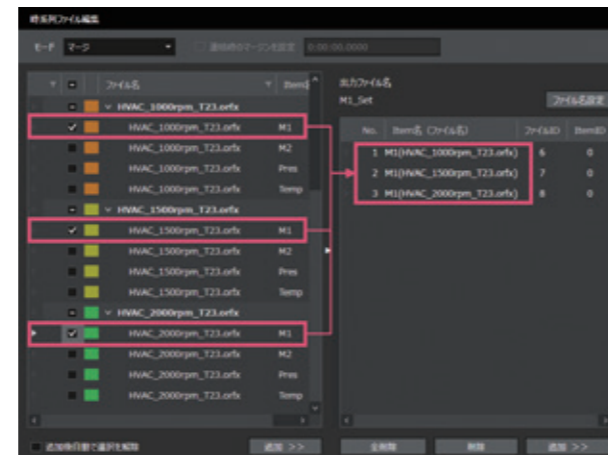
グラフの設定項目のお気に入り登録

O-Solutionにはグラフに対してスケール設定や補助単位など様々な設定項目を提供しています。よく使う設定項目をお気に入りとして登録できます。定型試験でよく使う設定をまとめておくことで操作ミスを防ぎ、解析作業の効率を向上できます。



ファイルマージ機能

複数の収録データに対して任意のCHのみを1つのファイルに集約することができます。解析したいデータだけを1つのファイルにまとめることで、音の聞き比べやデータの比較などを効率良く実行できるようになります。



インポーター

時系列データのファイルをプロジェクトファイルにコピーするか、コピーせずに参照するかを選択できます。参照する場合は、ファイルのインポート時間が短縮でき、プロジェクトファイルのサイズも削減できます。

96ch、収録時間 10分のファイルの場合

時系列データのインポート方式	インポート時間
プロジェクトにコピーする	296秒
プロジェクトにコピーしない(参照)	120秒*

* orfxファイルのみが対象です。
* 参照するファイルのパスが変わった場合は、再度インポートが必要です。

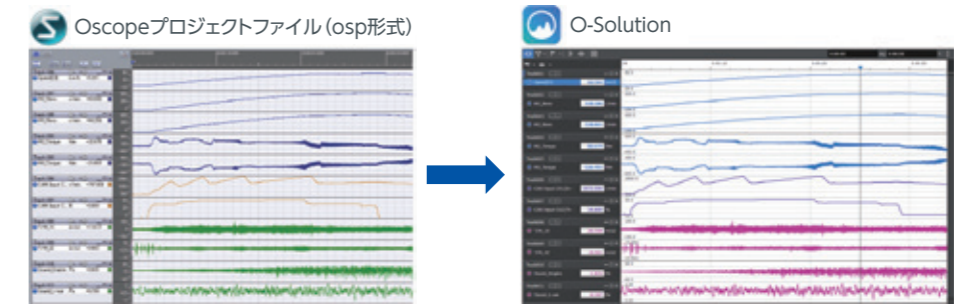
プラットフォーム：OS-5100

時間波形のファイル読み込み、特徴点の把握をスピーディに行いたい

解析モードでは、時間波形の読み込みを短時間でできる機能を搭載しています。

Oscopeプロジェクトファイルのインポート

自動車開発の計測制御ベンチでのデータ確認作業では、複数の時系列データを比較するためにOscopeが用いられてきました。O-Solutionでは、Oscopeプロジェクト内の膨大な計測データをそのままO-Solutionにインポートできます(時系列波形の復元のみ対応します)。生データが無くOscopeプロジェクトしか残っていても、O-Solutionでデータを復元できますので、過去データの管理や確認をスムーズに行えます。



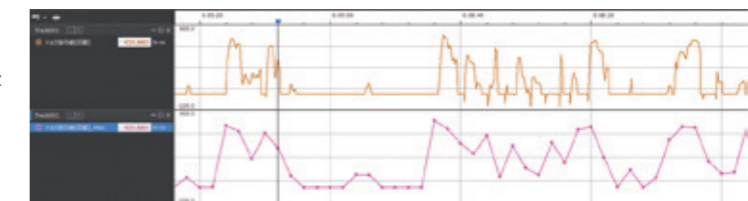
統計処理機能

取得した時間波形から統計値を演算します。計測モードでは、リアルタイムに取得した時間波形から統計値(最大値、歪度など)を表示します。解析モードでは、任意の区間に対して統計値を表示し、最大値や極大値など特徴点にカーソルを移動することができます。また、統計トレンド演算機能を使用すると、統計値の時間変化を表示できるので、長時間収録したデータから変化点を簡単に見つけられます。

統計トレンド演算機能

トルク値(時間波形)
サンプリング周波数 10 Hz

1 ms毎のトルクの最大値
サンプリング周波数 0.1 Hz



オプション

デジタルフィルター機能：OS-0521

素早く異音の周波数帯域を見つけたい

異音や振動問題が発生した際、収録したデータにIIRフィルターやFIRフィルターをかけて試聴することで素早くその周波数帯域を見つけることができる機能です。フィルターをかけた、新たな時系列データを生成することもできます。次数及び周波数に対して同時にフィルターをかける事ができ、回転体の異音調査に役立ちます。

FIRフィルター



IIRフィルター

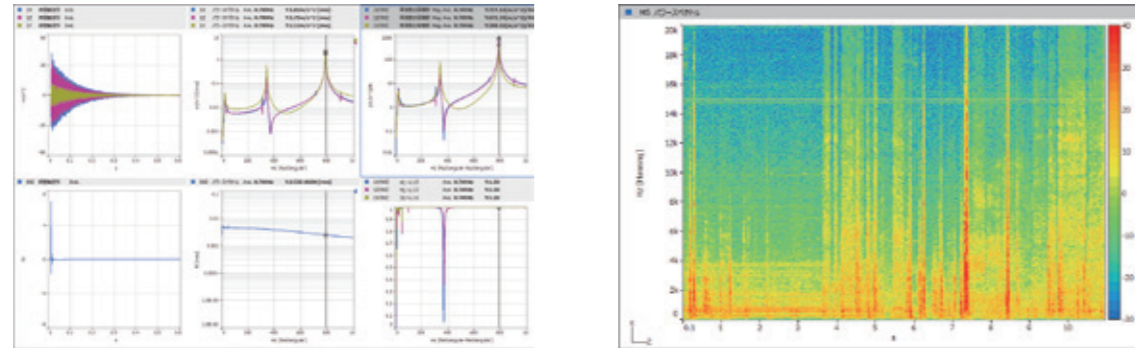


FFT解析機能：OS-0522

機械や部品など構造物がもつ振動や音の周波数成分や共振周波数を把握したい

時間軸の波形を周波数成分ごとに分解し、振動や音の大きさや共振現象を細かく観察することができます。パワースペクトル、周波数応答関数、コヒーレンス関数など基本的な演算機能を搭載しています。

FFT解析と同時に、オクターブ解析、トラッキング解析もリアルタイムで計測可能です。

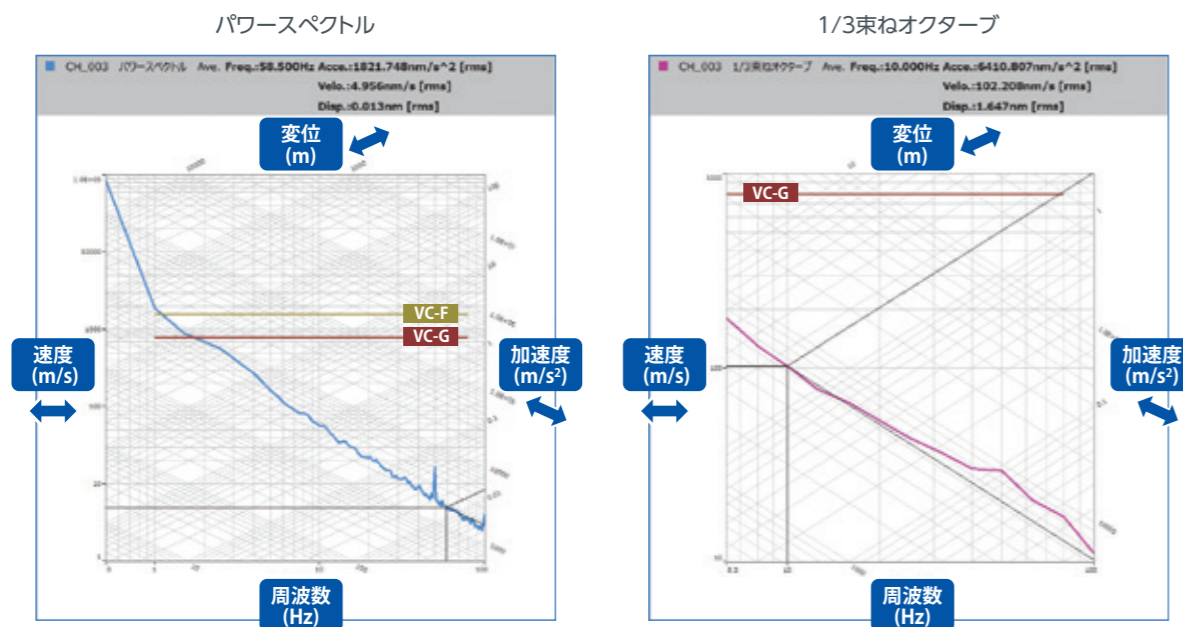


加速度のデータから変位、速度の振幅の確認をしたい(トリパタイトグラフ)

トリパタイトグラフ^{*1}を表示する事ができ、周波数(Hz)と3つの振幅値(加速度 / 速度 / 変位)を同時にリアルタイムで読取る事ができます。精密機器を設置する床振動の評価に便利です。

VC曲線^{*2}を表示する事で、半導体製造装置、AFM(原子間力顕微鏡)や電子顕微鏡、レーザー干渉計など振動に敏感な精密機器の許容振動基準や設置環境評価をスピーディに判断できます。

計測例：音響棟(無響室)の床振動



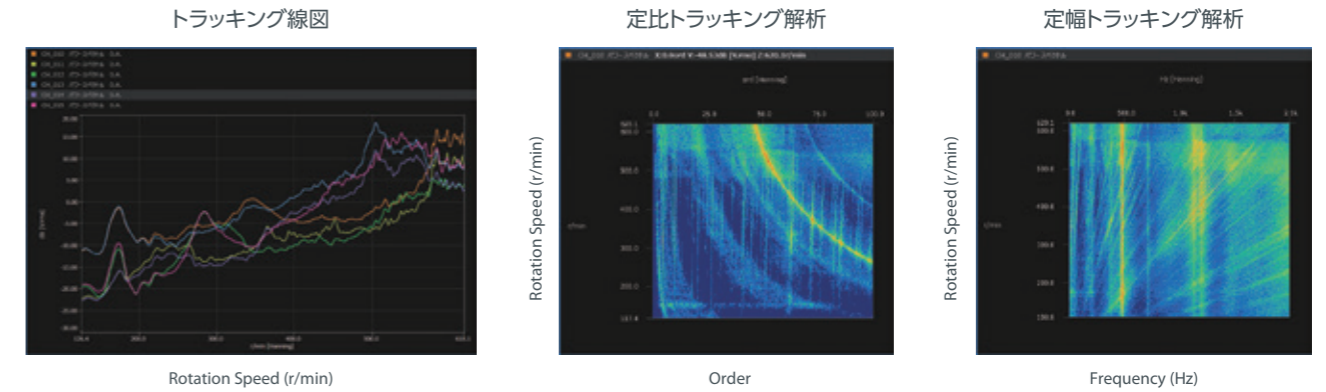
*1 トリパタイトグラフとは、周波数(Hz)軸上で、速度(m/s)を基本として、加速度(m/s²)、変位(m)の振幅を同時に読み取ることができるグラフです。

*2 VC曲線(振動評価曲線(Vibration Criterion Curves))とは、半導体製造装置や電子顕微鏡などの精密装置を設置する床の振動許容基準線になります。精密機械を設置する際に許容する微振動の基準として提唱されています。VC曲線使用時は1/3オクターブ帯域幅での評価が用いられ、規格は6 dB刻みに7段階(VC-A、VC-B、VC-C、VC-D、VC-E、VC-F、VC-G)に分けられており光学顕微鏡から光路長の長いレーザー装置など用途の目安に分かれています。

トラッキング解析機能：OS-0523

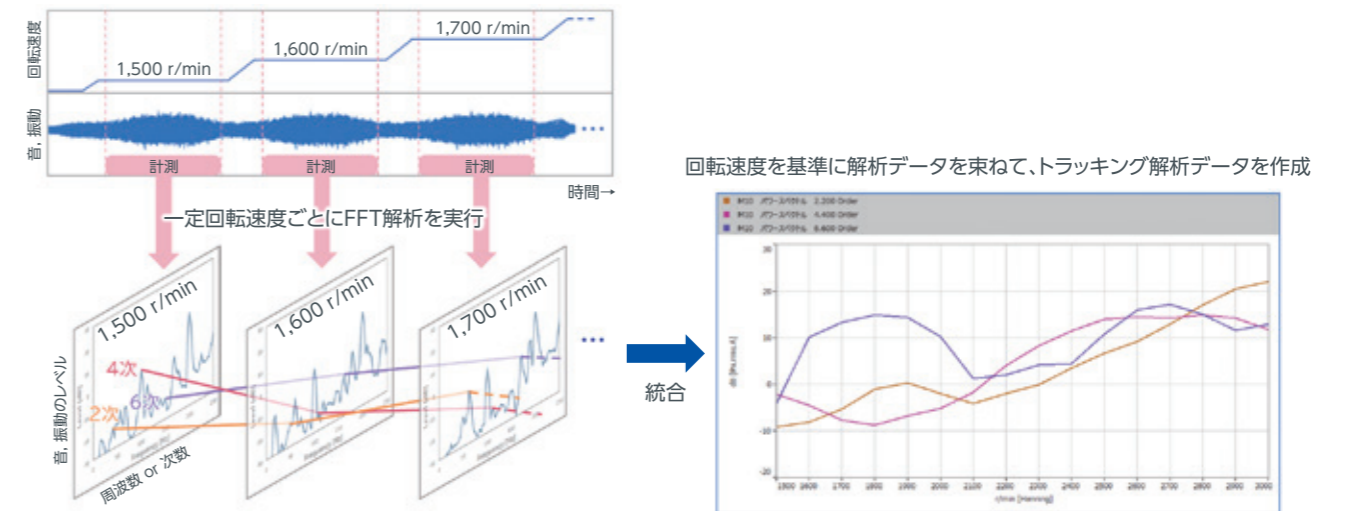
回転機器の音響・振動特性を把握したい

モーター、発電機などの回転体から発生する音や振動について、各次数成分がどの回転速度で大きくなるかを把握することができます。定比・定幅のトラッキング解析はもちろん、オフセットトラッキングも可能です。



スweep運転できない回転機械の次数トレンドを確認したい

一定回転速度ごとに計測した複数のデータを結合して、トラッキング解析データを作成できます(回転速度基準データ統合)。スweep運転ではなくても、一定回転速度ごとの計測を順次行なうことで、回転速度範囲の中で問題となる次数を効率よく特定できます。



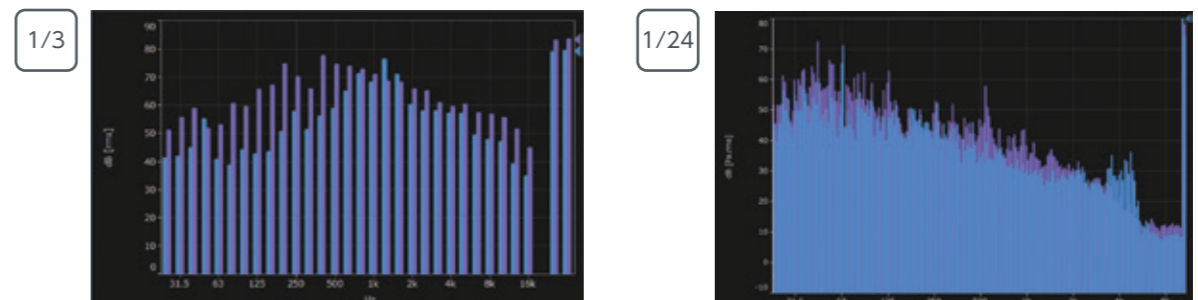
オクターブ解析機能：OS-0524

環境騒音や振動の測定がしたい

人間の耳は周波数に対して等比的な特性を持っており、オクターブ解析はこの耳の特性と相性の良い解析です。騒音レベルや振動レベルなどを把握する際やISO、JIS規格に沿った計測で使用することができます。

また、1/Nオクターブリアルタイム解析、マルチ解析でFFT解析も同時リアルタイム計測が可能です。

リアルタイムでは、1/1、1/3、1/6、1/12、1/24のオクターブ解析も可能になりました。



音質評価機能 : OS-0525

人の聴感特性を考慮した音質評価

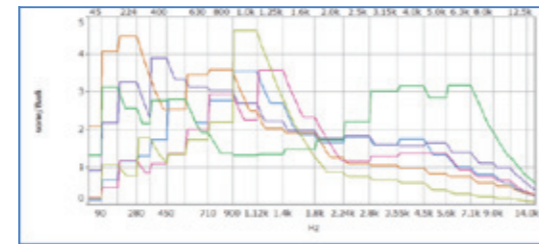
FFT解析、1/3オクターブ解析など一般的に用いられている音響解析では、人間の聴感的な印象を定量化できないことがあり、聴いた印象の異なる2つの音を解析しても結果に違いが見られないことがあります。音質評価機能は、人の聴感特性を考慮した音質評価指標で「音の大きさ」、「音の甲高さ」、「音の濁り感」などの感覚量を定量化できます。

音質評価指標

ラウドネス [音の大きさ]	シャープネス [甲高さ]
ラフネス [濁り感]	変動強度 [変動感]
トーンリティ [純音感]	TNR/PR [離散純音]

対応規格

・ 定常音ラウドネス(ISO532-1)

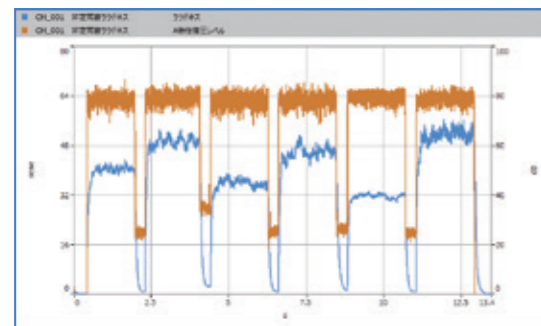


・ 非常音ラウドネス(ISO532-1)
・ TNR/PR(ISO7779 Annex D)

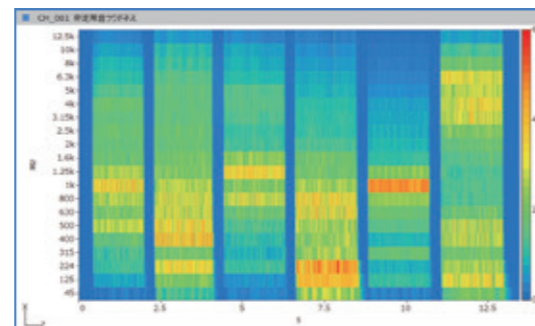
音質評価事例 機械音の比較

グラフに示しているのは音の大きさが異なる6つの機械音に対する分析例です。左図のトレンドグラフで、黄色はA特性音圧レベル(騒音レベル)で分析したもので、6つの機械音は全て同様の値を示しています。それに対し、青色は音の大きさを示す評価量の「ラウドネス」で分析した結果で、6つの音の違いが現れています。実際にこれらの音を聞いてみると、ラウドネスの結果と同様に音の大きさがそれぞれ異なって聞こえます。ラウドネスを用いることで、A特性音圧レベルのような音圧に基づいた量だけでは評価できない、人間が聞いたときの音の大きさの違いを評価できます。

トレンド(ラウドネス・A特性音圧レベル)

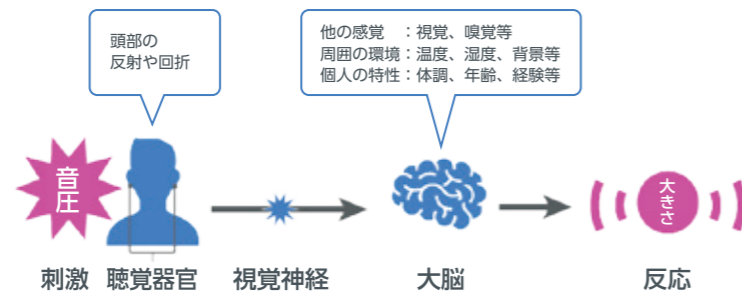


ラウドネスカラーマップ



ラウドネスとは

ラウドネス(音の大きさ)とは、主観的に感じる音の強さを表す感覚量(聴覚神経の興奮量の総和)を表し、1 kHz、40 dBの純音の音の大きさを1と定義して、他の音をこの音の何倍の大きさかという形で表現します。単位はsone(ソーン)です。



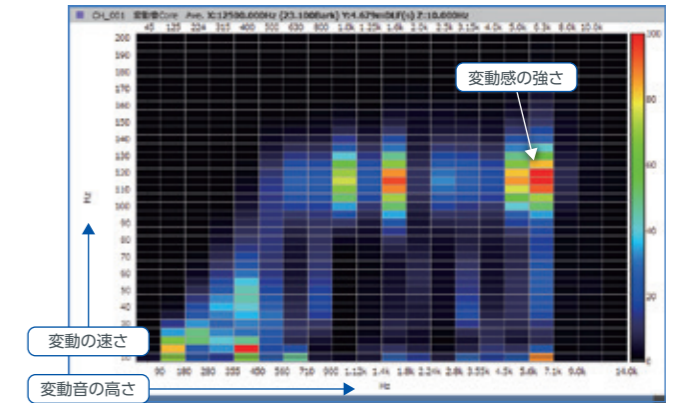
音の「高級感」や「心地よさ」など、人によって感じ方の異なる感覚を定量化するには、聴感実験を通して得られた主観量と物理量の相関を求める主観評価実験が必要です。弊社では、簡単に聴感実験を実施できる感性和物理をつなぐ音のプラットフォーム「Sound One」をお取り扱いしております。また、心理学に基づいた主観評価実験のコンサルティングもお受けしております。

変動音解析機能 : OS-0526

音の変動感を詳しく解析したい

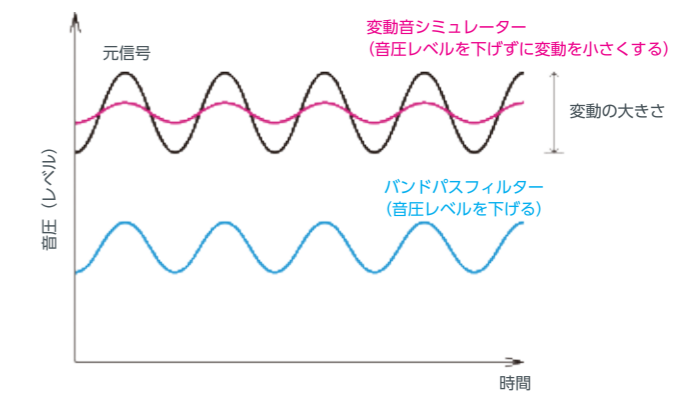
時間的に短い周期で発生する音やレベルが変動する音は、音の大きさが小さくても耳障りに感じることがあります。変動音解析は、ラウドネスをベースに様々な変動成分の大きさを定量化することができ、FFT解析では検出困難なビリビリ音、カタカタ音など小さくても気になる音の変動成分を抽出することができます。

音の高さ(周波数)と変動の速さ(変動周波数)に分解した細かい変動成分を確認することが可能で、主観的な印象と変動周波数の関係を調べたい場合などに有効です。



変動音シミュレーター

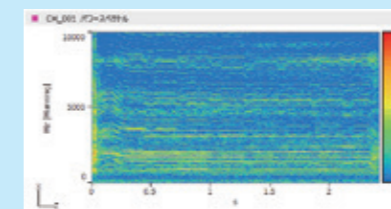
変動音解析結果を確認しながら、気になる変動成分を低減したり、聞き取りやすい変動成分を強調したりすることにより音を調整して聴感評価ができる機能です。



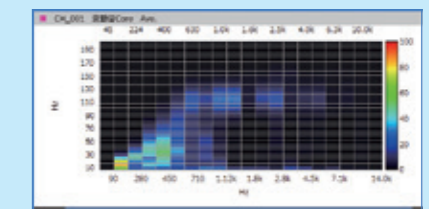
変動音解析事例 小型モーターの異音

モーターの作動音に「ジー」という濁った異音が混ざる場合があります。これまでは人が聞いて良否判定を行っていました。FFT解析でその異音をうまく捉えることが難しいようなケースでも、変動音解析を使用することで良品/不良品の違いを明確に判別することができます。

FFT 解析

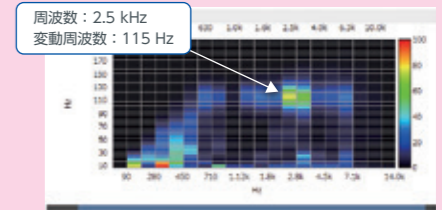
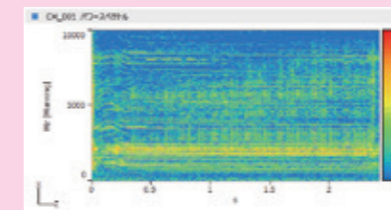


変動音解析

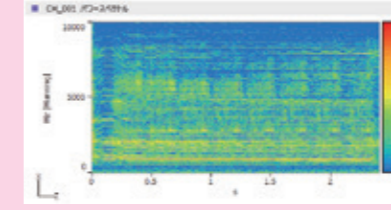


良品
クリアな音

不良品(A)
濁った音が混じる



不良品(B)
濁った音が混じる



時間周波数解析機能 : OS-0527

過渡現象を解析したい

FFT解析では捉えることが難しい過渡現象でも、周波数分解能を維持したまま、周波数成分の時間変化を鮮明に表示することが可能です。短時間フーリエ変換とウェーブレット変換の2種類の解析を搭載しています。

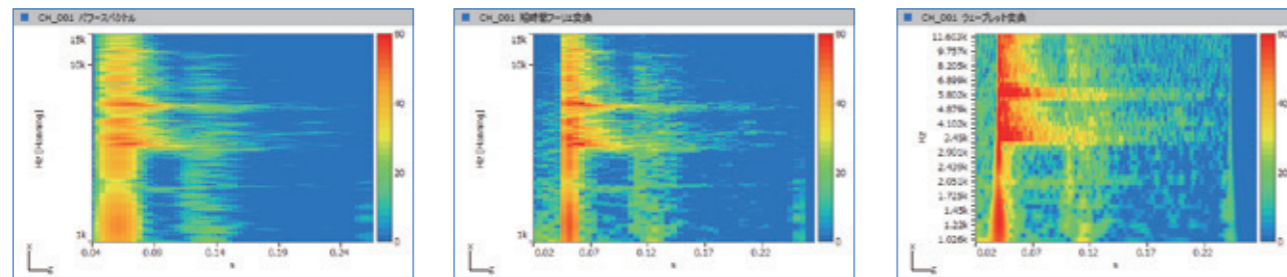
短時間フーリエ変換 STFT (Short-time Fourier transform)

切り出し時間窓長とフーリエ変換のフレーム長を別々に設定することで、必要な周波数分解能を保ったまま時間分解能を良くして、フーリエ変換を実行できます。非常に短時間のスペクトル変化を観察するときに有効な手法です。

ウェーブレット変換 (Wavelet transform)

突発的なまたは非定期的な音や振動などの複雑な波形の時間的変動と空間的推移を同時に解析することを可能とした解析手法です。この手法は、周波数によって解析時間長を変えています。時間・周波数のバランスが良いので、解析結果の全体を捉えるのに有効です。

下のグラフは、ゴルフの打音をFFT解析、短時間フーリエ変換、ウェーブレット変換で解析した結果です。



FFT解析

短時間フーリエ変換

ウェーブレット変換

統計解析機能 : OS-0531

様々な統計解析を1つのウィンドウで実現

指令信号とフィードバック信号の2変数解析を行うことで相関係数を求めるなど、様々な統計解析が1つのウィンドウでできます。

基本統計解析

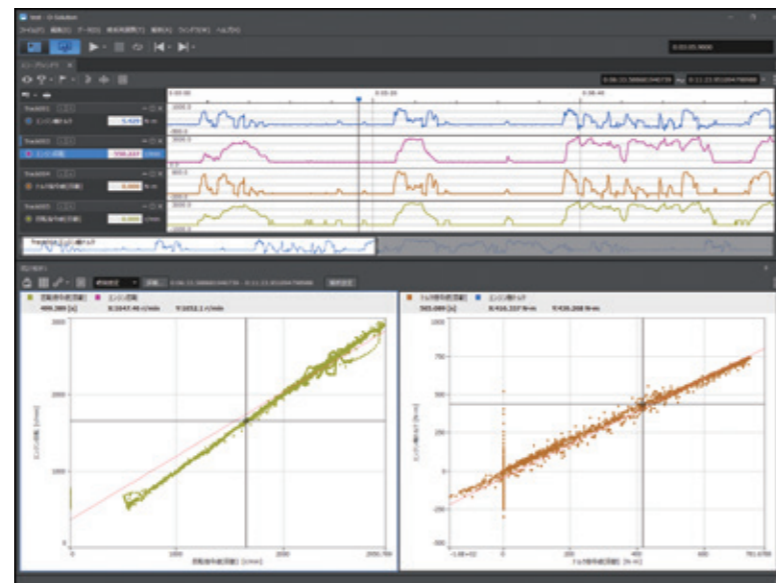
ヒストグラム、自己相関関数、正規確率プロット

2変数解析

散布図、相互相関関数、ステレオグラム、区間統計

3変数解析

3次元散布図、3次元区間統計

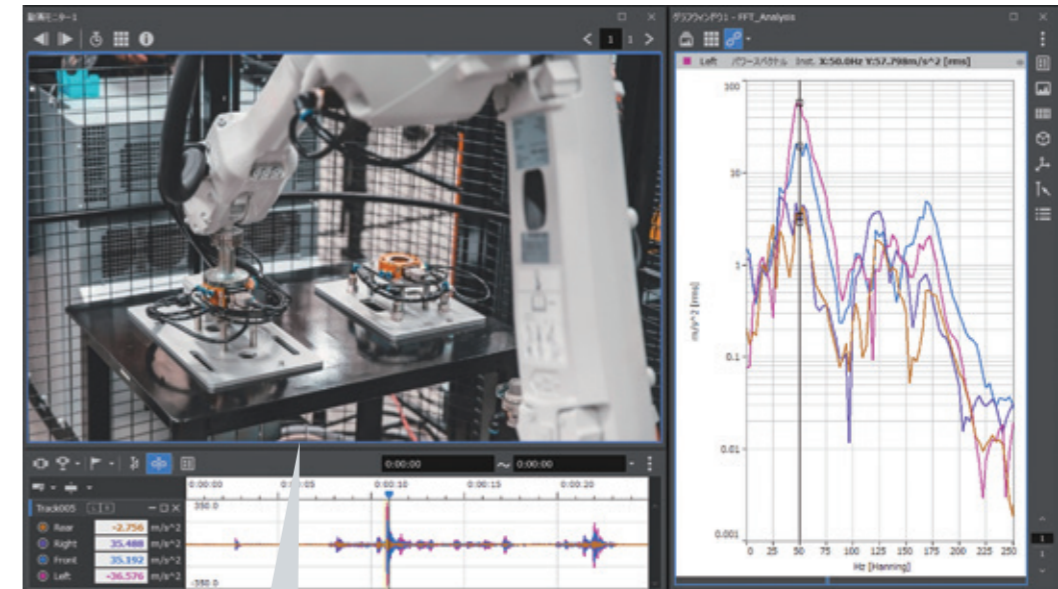


動画再生機能 : OS-0532

対象物の動作を見ながら現象把握したい

ビデオカメラやスマートフォンなどで録画した動画ファイルをO-Solutionへ読み込み、音や振動などの解析結果と合わせて再生できます。動画と時系列データやFFT解析結果等を並べて表示することで、対象物の動作で問題となる部位の現象把握に役立ちます。スマートフォンの音声データも解析できるため、例えば現場作業員から送られてきた動画ファイルの周波数解析に活用できます。

※ スマートフォンから取得した音声データは、校正データがない限り正確なデシベル (dB) 値への校正や変換はできません。振幅の数値はあくまで参考値としてお取り扱いください。



ロボットアームの動きが変化する時に振動大

読み込み可能な動画ファイル形式

AVIファイル / MP4ファイル / MOVファイル / WMVファイル / M4Aファイル

※ 動画データは縦向きや横向きに回転 (微調整も可能) して表示できます

※ DS-5000で収録したデータと動画データの開始位置がずれている場合は、時系列位置合わせ機能を用いてデータ毎の位置を揃えることが可能です

※ 対応コーデックの詳細については、巻末の仕様欄をご確認ください

外部コントロール機能 : OS-0510

O-Solutionの操作を自動化したい

繰り返し作業の自動化で時間を短縮したい

製品検査装置として使用したい

外部コントロール機能用ライブラリ O-Step API (対応言語 : C#) やその言語拡張機能 O-Step API Service (対応言語 : Python, MATLAB, LabVIEW, C++, VBA) を使用し、お客様が作成したソフトウェアからO-Solutionをコントロールすることができます。お客様のシステムで、音や振動のデータの収録や解析の自動化が可能です。

使用例:

- ・ 大量データを自動計測・解析・保存可能で時間短縮
- ・ 試験装置のNV評価機能として組み込む

DS-5000 ハードウェアコントロールライブラリ:DS-0511

DS-5000を直接制御したい

O-Solutionを介さず、DS-5000ハードウェアから時系列データ等をリアルタイムに取得することができます。ご検討される場合は、お問い合わせください。

ハードウェア接続機能 : OS-0512

リアルタイムに測定がしたい

ハードウェア接続機能 (OS-0512) によって、FFT解析機能・トラッキング解析機能・オクターブ解析機能を計測モードで使用することができます。

国際規格の計測は簡単に 問題となる音の分析は徹底的に



自動車の電動化や家電の高効率化によるモーターやインバーターの普及に伴い、高い周波数の音を発生する製品が増えています。高い周波数の音は指向性が鋭いため、1点の騒音レベルで評価することが難しくなります。そこで、音を放射面全体でとらえる音響パワーレベルの利用が広がっています。

音響パワーレベルは製品が放射する音の総エネルギー量であり、聞く位置によらずに決まります。そのため、環境ラベル(エコマーク、Blue Angel)や騒音規制で用いられているグローバルな指標です。計測方法はISO規格やJISで定められています。

本システムでは、最新の規格に準じた計測と、問題となる音の周波数ピークや音圧分布を簡単に確認できることで効率的に騒音対策できます。

特長

最新の国際規格ISO 3744: 2025に対応

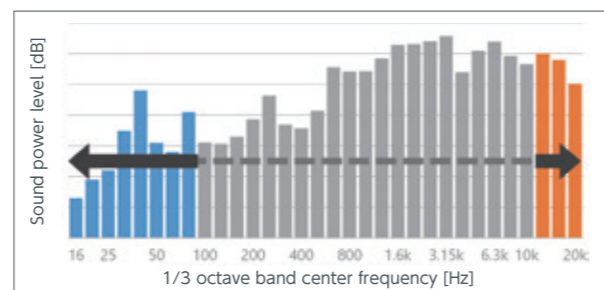
規格に準じた計測を簡単に実行し、エクセル形式のレポート出力が可能です。

規格の設定項目はカスタマイズでき、個別規格の演算に役立ちます。



1/3オクターブバンドの20 kHzまで算出

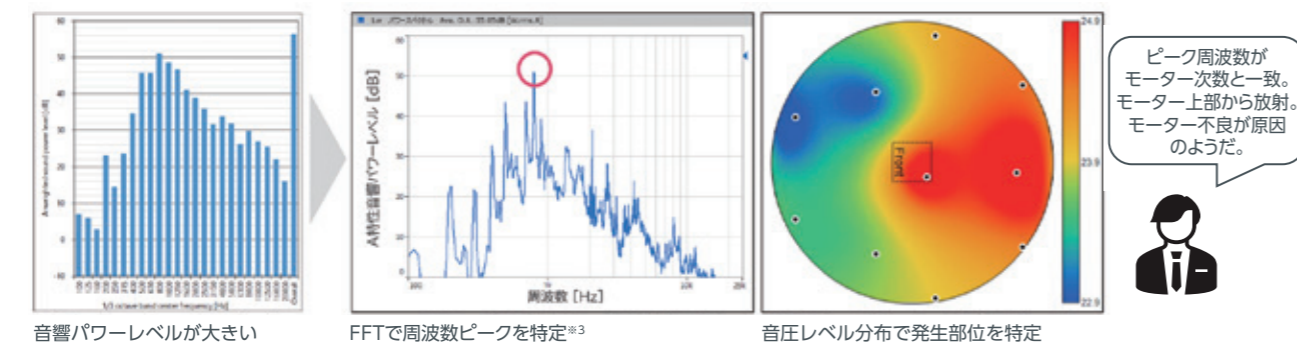
一般的に、音響パワーレベルの算出は規格で定められた100 Hzから10 kHzの範囲で行われますが、この周波数範囲を低域・高域ともに拡張して解析することが可能です。測定点数が多い場合は、複数回の分割計測が可能です*1。



原因分析に役立つ

- ・ 解析同時レコーディング(他センサーの同期収録も可能)
- ・ FFT、瞬時の音響パワーレベル算出*2
- ・ 音圧レベル分布

規格に準じた音響パワーレベルを算出した後に、収録データを用いて詳細な解析ができます。後解析でFFTや瞬時の音響パワーレベルを算出でき、音響パワーレベル増大に寄与する周波数ピークやタイミング、音源位置の特定を効率よく行います。再計測の手間なく原因分析を行うことができ、騒音試験のコスト削減につながります。



音響パワーレベルが大きい

FFTで周波数ピークを特定*3

音圧レベル分布で発生部位を特定

ピーク周波数がモーター次数と一致。モーター上部から放射。モーター不良が原因のようだ。

*1 音源に再現性があり安定している場合に利用可能です。

*2 規格の聴覚音補正・面積補正を行います。規格とは異なる周波数分解能または時間分解能で算出するため、参考値として扱ってください。

*3 FFTの周波数分解能で音響パワーレベルを算出する場合は、別途OS-0522 FFT解析機能が必要です。

音圧法音響パワーレベル: OS-0541

様々な対象物に適用される規格に対応

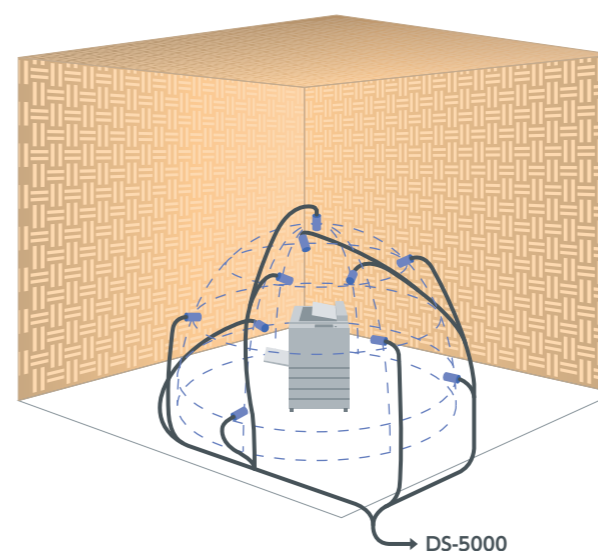
音響パワーレベルは、対象物を限定せずに様々な環境で計測できるように規格が定められています。OS-0541では、マイクロホンで計測する音圧法音響パワーレベルの規格に対応します。別途OS-0524 オクターブ解析機能が必要です。

対応規格

試験環境	規格	測定点数
無響室、半無響室	精密法 ISO 3745: 2012, JIS Z 8732: 2021	20点~
半無響室、屋外	実用法 ISO 3744: 2025, ISO 3744: 2010, JIS Z 8733: 2000	9, 10点~
	簡易法 ISO 3746: 2010	4点~
残響室	精密法 ISO 3741: 2010, JIS Z 8734: 2021 (比較法のみ対応)	6点~
高周波の音響パワーレベル	ISO 9295: 2015 (離散音を含まない場合のみ対応)	ISO 3741, 3744を引用

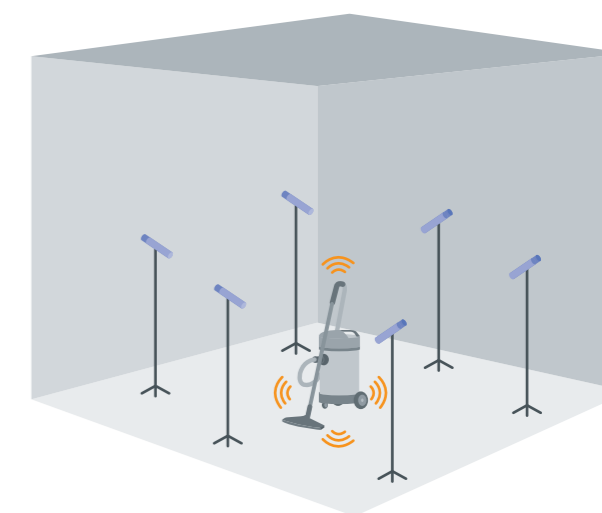
半無響室の音響パワーレベル計測

最も広く利用される測定方法です。対象物を取り囲む半球面や直方体の測定点配置で測定します。



残響室の音響パワーレベル計測

半無響室と比較して、少ない測定点で精度よく測定できます。直接法と比較法があり、OS-0541では比較法のみに対応します。



放射音計測オプション(情報技術装置): OS-0542

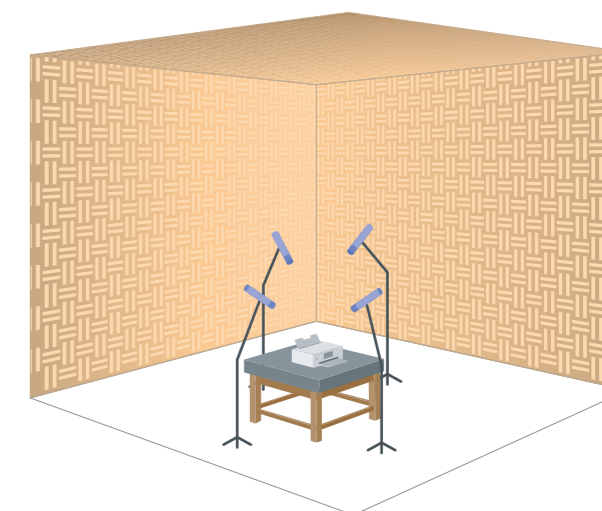
事務機器の個別規格に対応

コンピューターやプリンター、複合機などの放射音計測は、個別規格 ISO 7779で定められています。環境ラベルの取得にはこの個別規格が引用されています。音響パワーレベルの他にオペレータ位置又はバイスタンダ位置の放射音圧レベルや、必要に応じて顕著な離散音を算出します。

対応規格

測定項目	規格
情報技術装置の音響パワーレベル	ISO 7779: 2018, JIS X 7779: 2012
放射音圧レベル	ISO 11201: 2010
放射騒音表示値	ISO 9296: 2017
顕著な離散音	ISO 7779: 2018, JIS X 7779: 2012
	Tone-to-Noise Ratio, Prominence Ratio

バイスタンダ位置の放射音圧レベル計測



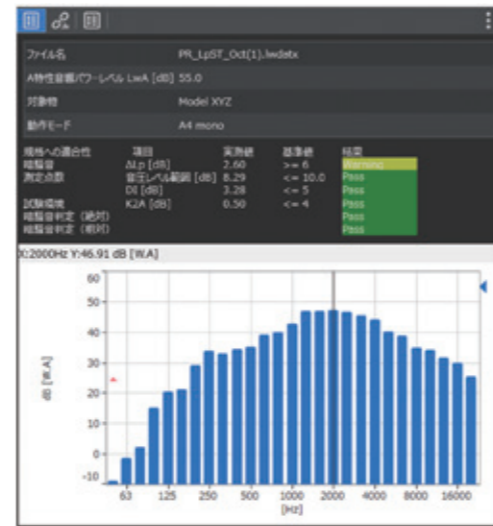
エアコン、家電、機械、事務機器など音響パワーレベル計測

規格に沿って計測することで、より正しく製品全体の音を把握することができます。

計測風景



計測結果イメージ



システム構成例

一般的な半球面上10点配置の計測システムの構成例です。

型名	品名	数量
O-Solution・DS-5000 シリーズ	12ch 40 kHz オクターブセット	1
OS-0541	音圧法音響パワーレベル	1
OS-0542	放射音計測オプション(事務機器)	1
MI-1235	計測用マイクロホン	10
MI-3111	マイクロホンプリアンプ	10
MI-0311	マイクロホン延長ロッド	10
MX-2020	信号ケーブル 20 m (両端BNC)	10
SC-2600	音響校正器	1
-	プレフォローサービス	-
-	アフターフォローサービス	-

- ・別途PCが必要です。推奨スペックはO-Solutionの仕様に従います。
- ・マイクロホンの固定には別途マイクロホンスタンド等が必要です。ご相談ください。
- ・マイクロホンスタンド等の選定や手配を行う場合には別途システム動作確認費を頂きます。

システム導入前後のフォローサービス

規格に沿った音響パワーレベル計測を行なうためには、お客様の試験体に対し試験環境や計測方法が適合しているか確認する必要があります。当社は受託測定や騒音低減コンサルティングで培った技術を活かし、お客様が安心して計測できるサービスを提供します。フォローサービスの詳細に関してはご相談ください。

導入前のサポートサービス

- ・個別規格などの技術相談
- ・音響パワーレベルの受託測定
(必要マイクロホン数などのシステム要件調査)
- ・既設試験室の音響特性測定
(暗騒音、逆二乗則、環境補正值)

アフターサービス

- ・音響パワーレベル規格のレクチャー
- ・ソフトウェア納入説明
- ・騒音計測に関する各種セミナー

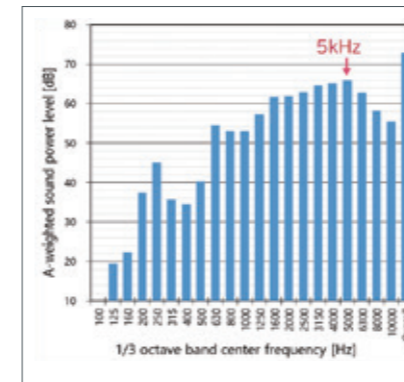


ギヤボックスの駆動音低減

音響パワーレベルと同時に音圧レベル分布を確認することで、音の発生源の特定と対策効果の確認を効率よく行なえます。

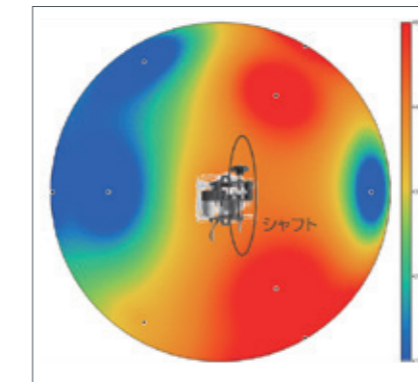


音響パワーレベルの低減には、ピークの5 kHzの対策が必要



音響パワーレベル結果

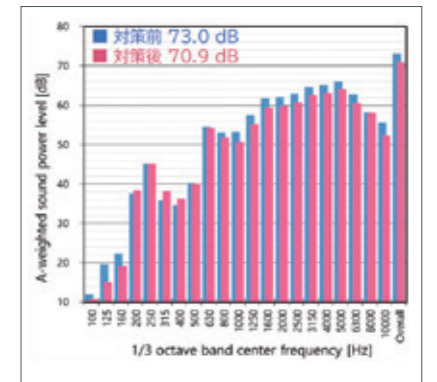
シャフト付近から放射
→実機を見るとシャフトにガタつきを確認



音圧レベル分布 (5 kHz)
※解析結果に後処理で画像を重ねています

対策 / 効果確認

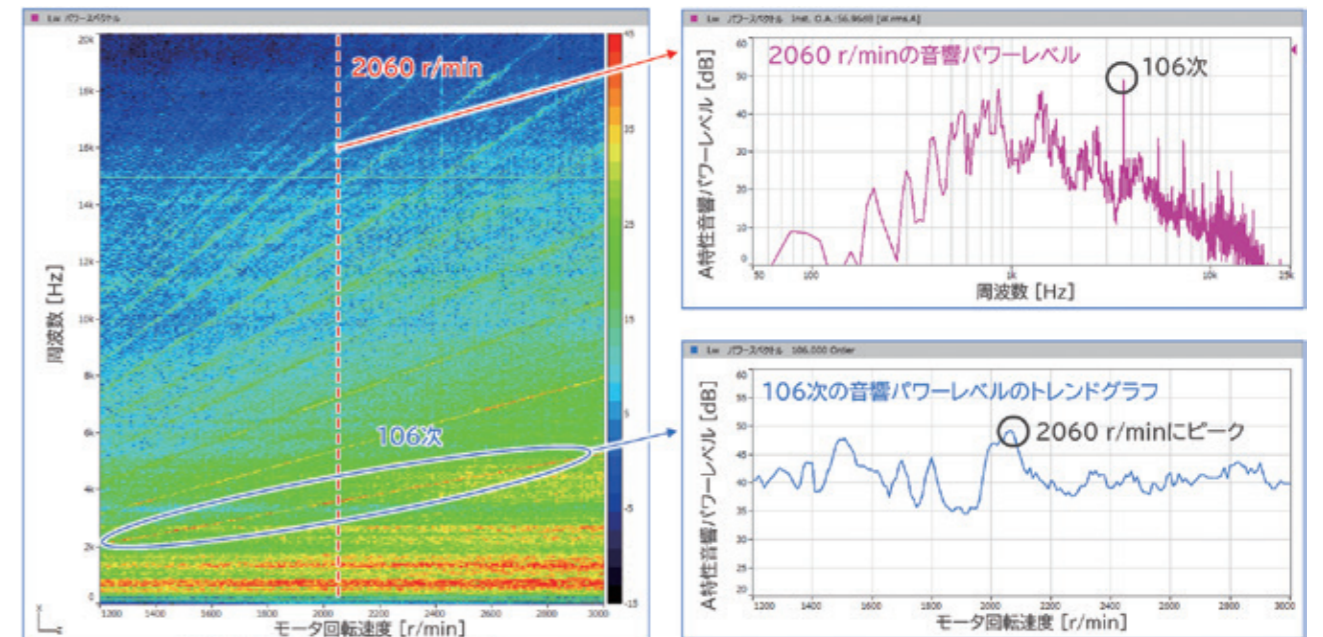
ゴムでおさえて
シャフトのガタつきを抑制
→音響パワーレベル低減
約2 dB



対策前後の音響パワーレベル低減

回転機器の音響パワーレベル

モーターを内蔵した機器では、回転速度に伴う高い周波数の音を発生しやすくなります。高い周波数の音はときに不快に感じることもあるため、音を低減する取り組みが重要です。OS-0541では、測定データを後解析してトラッキング解析の音響パワーレベルを算出できます。回転速度に応じた音響パワーレベルを全体把握することで、対策すべき動作条件を明らかにします。別途OS-0523 トラッキング解析機能が必要です。



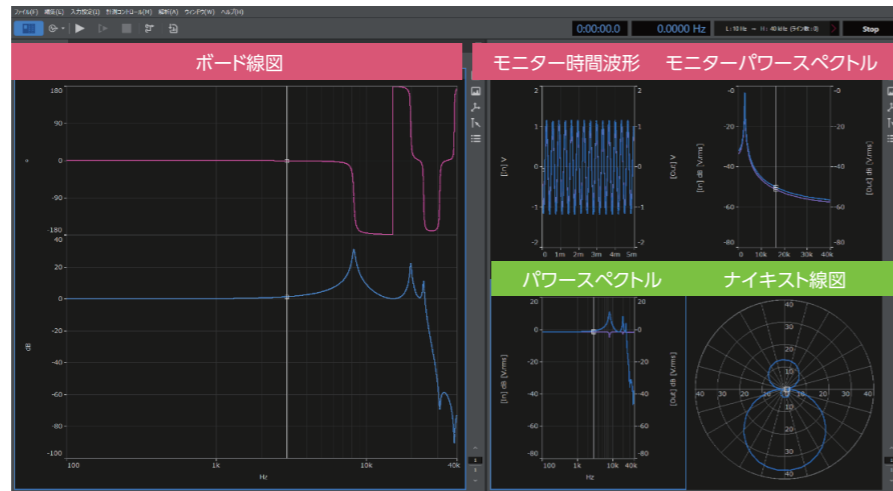
全回転域の音響パワーレベルを把握

機械構造物や制御回路の周波数特性(周波数応答関数)を計測

周波数応答計測ソフトウェアは、機械構造物の振動特性、スピーカーの音響特性、モーター制御特性、カップリングの応答特性、バッテリーのインピーダンス特性など様々な対象物の周波数特性を高分解能に高速に誰でも計測することができる専用のソフトウェアです。



測定項目:
振動特性 音響特性 制御(サーボ)特性
応答特性 交流インピーダンス特性
対象物:
モーター、モーター用ドライバー、圧電素子、
スピーカー、カップリング、バッテリー



高精度

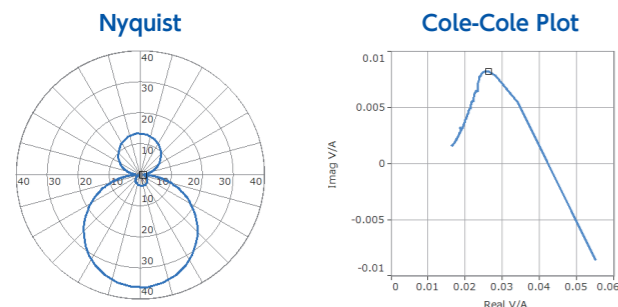
周波数応答関数を高分解能・高精度に計測できるようハードウェアの性能を向上しました。

【ダイナミックレンジの比較】

	FRA方式	FFT方式
本製品(OS-5000):	160 dB	130 dB
旧製品(OS-3000):	140 dB	110 dB

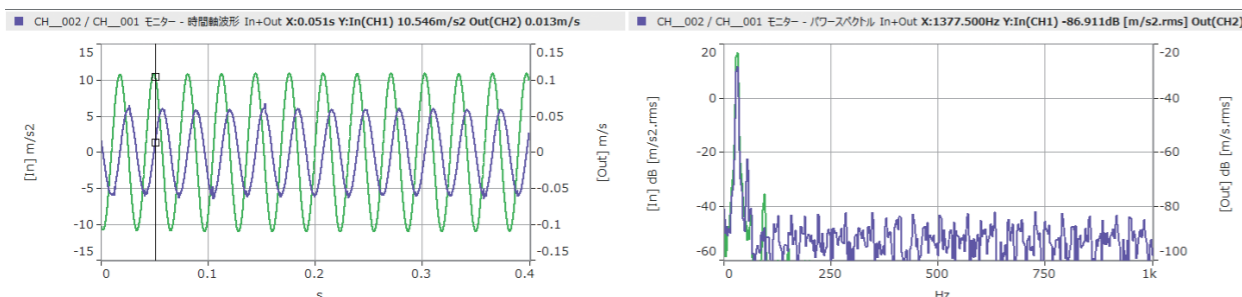
OS-5000は、アイソレーション(絶縁)しており、耐ノイズ性の向上や電位差のある実験が可能です。

豊富なグラフ表示



周波数応答関数に加えて、Nyquist, CoQuad, Nichols, Cole-Cole Plot, power Spectrumを表示することができます。

モニター機能



計測時に各chに入力している「時間波形」「パワースペクトル」をリアルタイムに表示する事ができます。計測時に予想通りの信号が入っているか、異常な信号が入っていないかモニターする事ができます。

演算の高速化

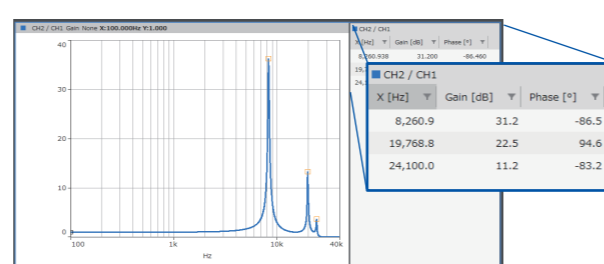
今までのFRA方式では低周波数帯域の計測に時間がかかりましたがOS-4100では演算方法を見直し、大幅に計測時間を短縮しました。

【計測時間の比較】

	計測条件①	計測条件②
本製品(OS-4100)	54秒	100秒
旧製品(OS-0342)	195秒	365秒

計測条件①: FRA方式 1 Hz~1,000 Hz 50 Line/Decade
計測条件②: FRA方式 1 Hz~100 Hz 100 Line/Decade

便利リスト機能



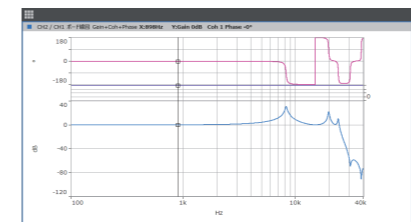
ピーク値の表示や減衰比、損失係数などの算出、さらにゲイン余裕・位相余裕を自動サーチすることができます。

特長

2種類の演算方式を搭載

FRA方式(Frequency Response Analyzer)

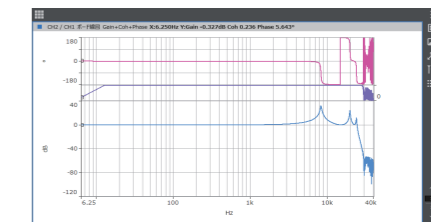
単一周波数毎に振幅・位相を求める方式です。広いダイナミックレンジにより、周波数特性を高精度に計測することができます。



- ・信号出力
Log Sin スイープ
- ・周波数分解能
200 Line/Decade
(100 Hz~40 kHz)
- ・計測時間
78秒(2回平均/Line)

FFT方式(Fast Fourier Transform)

計測する全ての周波数範囲を同時に求める方式です。広い周波数範囲を高速に測定することができ、周波数特性を素早く把握することができます。

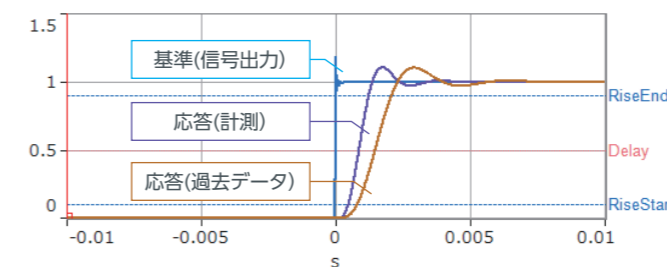


- ・信号出力
Random
- ・周波数分解能
6.25 Hz
(6400 Line)
- ・計測時間
17秒(100回平均)

ステップ応答機能を搭載

対象物の時間的な応答の性能を求めることができます。対象物に階段状のステップ信号(時間)を与え、ステップ応答信号を計測することで応答性能に関する数値(立ち上がり時間など)を自動的に算出することができます。実測データと過去データを比較することもできます。

計測イメージ ステップ応答の計測



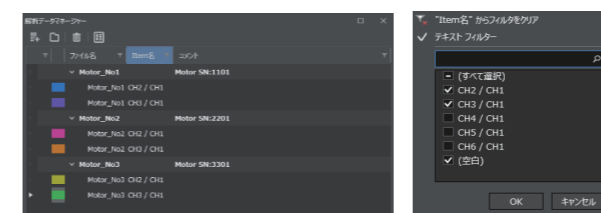
自動算出できる数値

項目	計測	インポート
立ち上がり時間 [ms]	0.771	1.279
遅れ時間 [ms]	0.879	1.484
行進通過時間 [ms]	1.768	2.920
オーバーシュート [%]	10.755	10.343
安定時間 [ms]	3.105	5.166
対数減衰率	2.556	2.470
減衰比	0.377	0.366
振動周期 [ms]	2.109	3.574
減衰周波数 [Hz]	474.074	279.781

データマネージャーを搭載

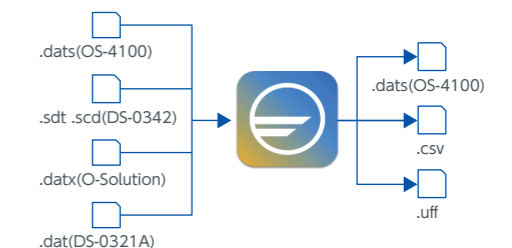
データマネージャーで取得データを一括管理します。一覧表示やソート機能で複数のデータを簡単に比較できます。

解析データマネージャー



多様なファイルに対応

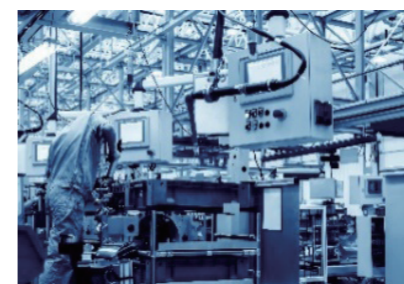
MEscope実験モード解析システムソフト等で扱えるように、汎用的なUFFやDATS(HDF5)形式でエクスポートできます。また、O-Solutionなど関連製品のファイルをインポートできます。



オプション 外部コントロール機能 : OS-0410

生産ラインで使用したい 計測を自動化したい

オプション機能としてOS-0410 外部コントロール機能を用意しています。お客様が作成したソフトウェアとTCP/IPで通信し、事前に用意した計測条件で計測、データの保存を行うことができます。



- ・量産品の検査プロセスを自動化
設定、計測、保存を自動化することでボタン1つで必要な作業を完了することができます。
- ・他アプリから計測器を制御
計測開始と終了タイミングを制御することや計測条件を指定することができます。

外部コントロール機能 : OS-0410

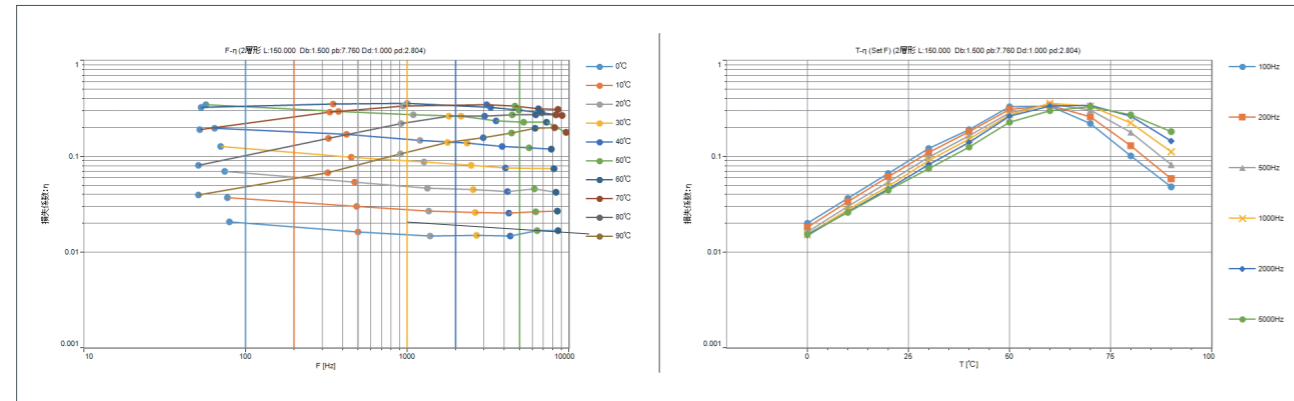
LANポート	制御側との通信用 (同一PC内で運用する場合は不要)
プロトコル	TCP/IP
文字コード	ASCII
改行コード	CRLF

オプション 損失係数算出ツール:OT-0450

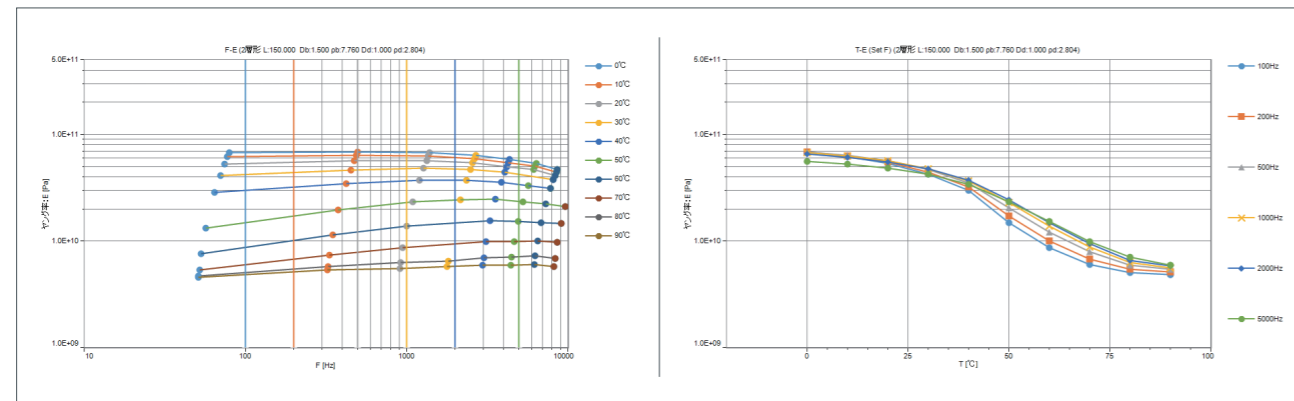
材料単体では試験片の形状が保てない場合や、損失係数が大きい場合は、基材(鉄など損失の小さい材料)に貼り付けて測定する場合があります。

本オプションでは周波数応答計測ソフトウェア(OS-4100)で計測した複層試験片(基材に材料を貼り付けた試験片)の測定結果から、制振材料単体の損失係数と縦弾性係数(ヤング率)を算出することができます。また、温度試験を行うことで、複数の温度で測定した結果を重ね書きすることができます。

結果イメージ



制振材料単体の損失係数算出結果



制振材料単体の縦弾性係数算出結果

制振材料の損失係数測定

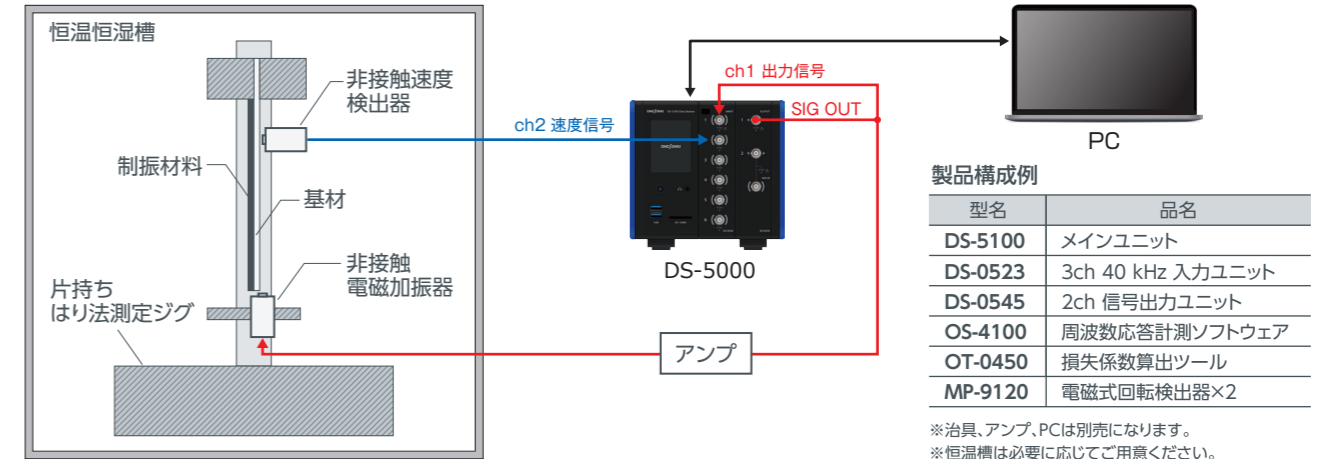
制振とは、固体表面の振動エネルギーを熱エネルギーに変換し、固体表面の振動を小さくする技術です。

このような性質をもつ制振材料の制振特性を評価する指標の1つに損失係数があり、測定手法は JIS K7391に記載があります。短冊形の試験片を強制的に加振して得られる周波数応答関数(機械インピーダンス(力/速度)やモビリティ(速度/力))のピークから半値幅法により、損失係数を求めます。

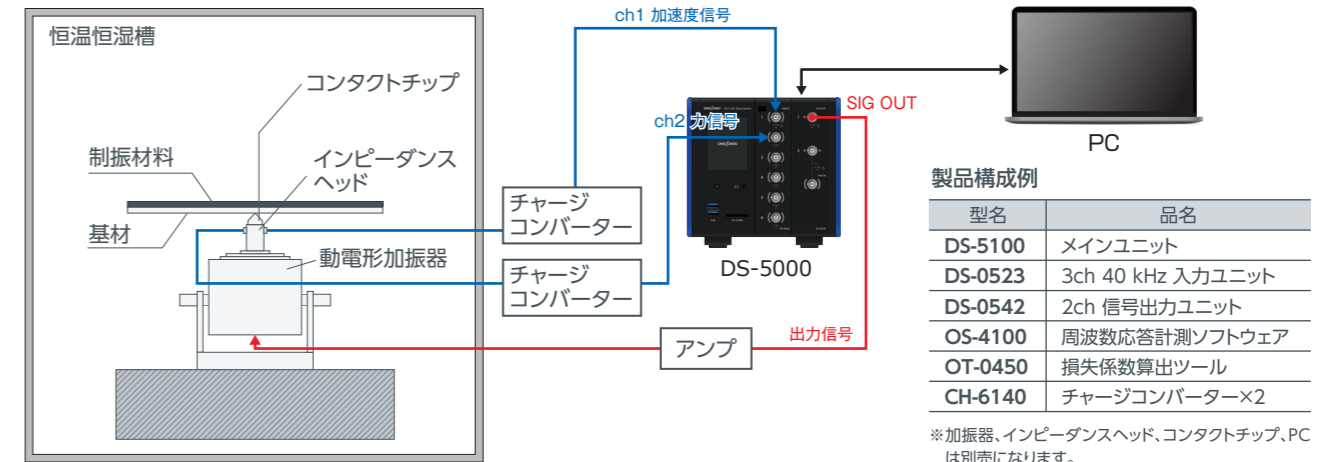
中央加振法の場合には、OS-4100の演算機能と微積分機能を用いて、コンタクトチップの重さを差し引いた周波数応答関数(モビリティ(速度/力))が計算できます。その周波数応答関数のピークから損失係数を算出することができます。

計測システム

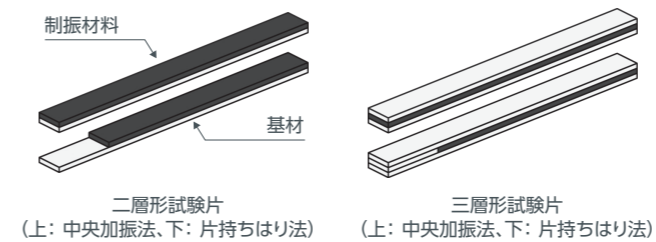
片持ちはり法損失係数測定システム



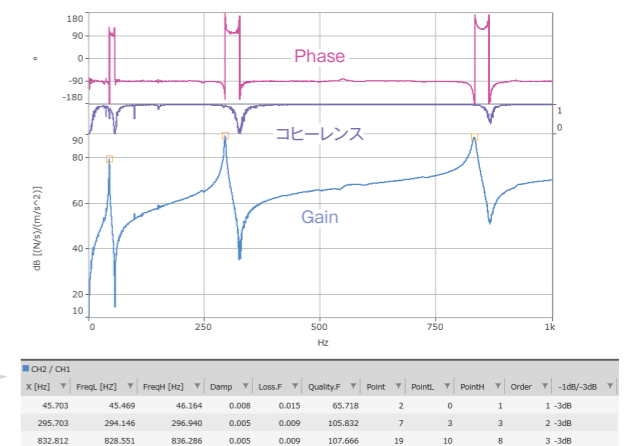
中央加振法損失係数測定システム



試験片イメージ



計測結果イメージ

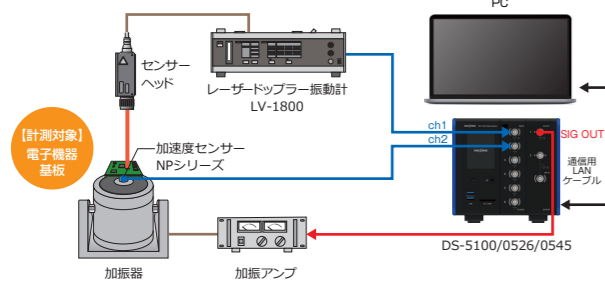


周波数応答関数の波形の確認と合わせて、次数毎の損失係数や損失係数算出精度の目安となる半値幅内のデータの個数を確認することができます。

加振器を用いた振動

構造物に振動が与えられた際にその振動周波数と構造物の固有振動数が一致すると共振が起き、非常に大きな振動が発生し、故障や破壊の原因につながります。そこで、構造物(対象物)の振動特性を評価することが重要になってきます。OS-4100は、加振器を用いた振動特性評価を最大42ch同時に計測することができます。また、微積分演算機能で加速度から変位に変換することや振幅コントロール機能で加振する振幅値を制御することができます。さらに、2つのデータを四則演算する機能(Item間演算機能)でシブの重さを差し引いた特性を計測するマスキングもできます。

計測システム

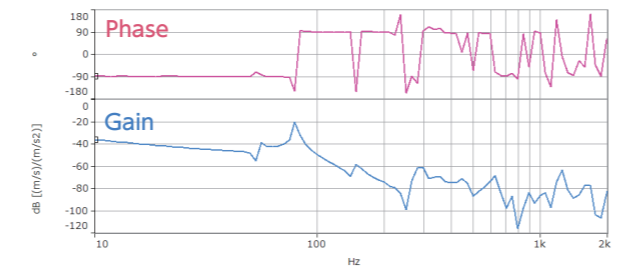
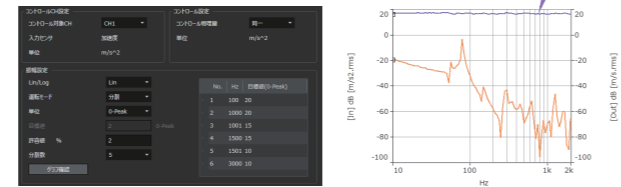


レーザードップラー振動計 LV-1800



検出周波数範囲	0.3 Hz~3 MHz (fc=-3 dB)
最大検出速度	10 m/s (0-p), 20 m/s (p-p)
最小速度分解能	0.3 μm/s以下 (0.01 (m/s)/V時)
レーザー安全クラス	クラス2

計測結果イメージ
出力振幅コントロール機能
計測しているchの振幅を制御することができます。



モーター・ドライバーの制御特性、応答特性の評価

ロボット、搬送装置、半導体製造機、自動車など様々な製品に組み込まれているモーターやドライバーは、その回転速度やトルクなどを制御するために制御回路が組み込まれています。この制御特性を評価するため、ゲイン余裕と位相余裕を求めます。OS-4100は、周波数応答関数(開ループ伝達関数)からゲイン余裕と位相余裕を自動算出できます。また、開ループ伝達関数を計測し、開ループ伝達関数(一巡伝達関数)を求めることができます。DS-0545 2ch信号出力ユニットは、フィードバック信号(対象物の信号)と計測用信号(DS内部で生成した信号)を加算して入力へ戻すことができます。これにより制御回路に直接信号を注入する事ができ、制御回路の安定性を簡単に評価することができます。また、ステップ応答機能により時間軸領域の応答性(遅れ時間やオーバーシュート値など)を計測、自動算出することができます。

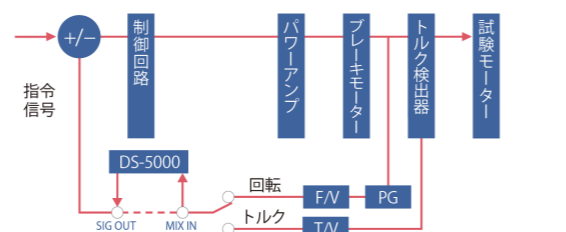
計測システム



DS-0545 2ch信号出力ユニット(加算機能付き)

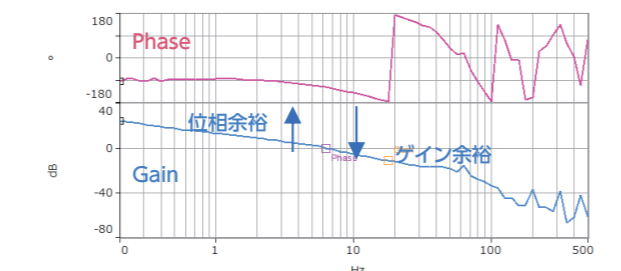
DS-0545 2ch信号出力ユニットは、対象物からのフィードバック信号に計測用信号(DS内部で生成した信号)を加算した信号を出力できます。そのため加算アンプを用意する必要がなく、アンプ間のケーブル配線がなくなることで、耐ノイズ性が向上します。

ブロック図



加算機能を用いることでフィードバック信号に直接計測用の信号を加算することができ、対象物の開ループ伝達関数を測定することができます。

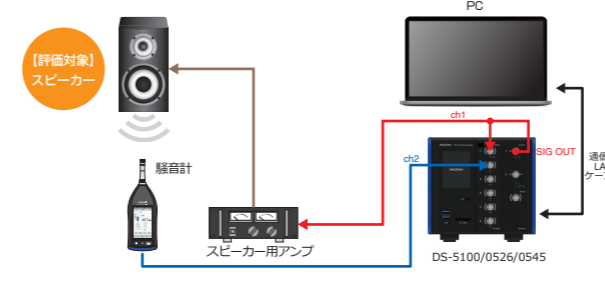
計測結果イメージ
ゲイン余裕、位相余裕を自動サーチできます。



スピーカーの音響特性評価

スピーカーの性能を決める要素として音の周波数特性があります。OS-4100は、DS-5000の信号出力をスピーカーのアンプに接続し、発生した音を騒音計やマイクロホンで捉えることで、スピーカーの周波数特性を計測することができます。また、カットオフ周波数を自動で見つける機能(カットオフサーチ機能)を搭載しています。さらに、2種類の演算方式を搭載しており、FRA方式で周波数毎のデータを高精度に取得することやFFT方式で瞬時に計測したい全周波数帯域の特性を取得することができます。

計測システム

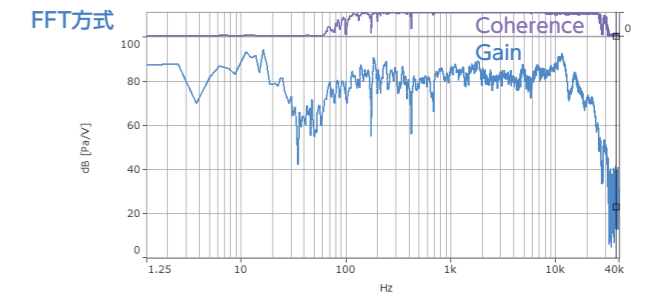


高性能精密騒音計 LA-7700

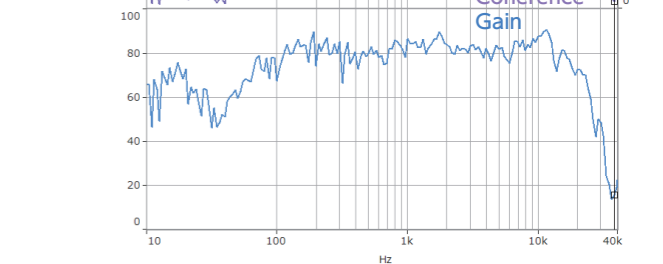


測定周波数範囲	10 Hz~20 kHz
測定レベル範囲	20~128 dB (A特性周波数重み付け)
自己雑音レベル	12 dB以下 (A特性周波数重み付け)

計測結果イメージ



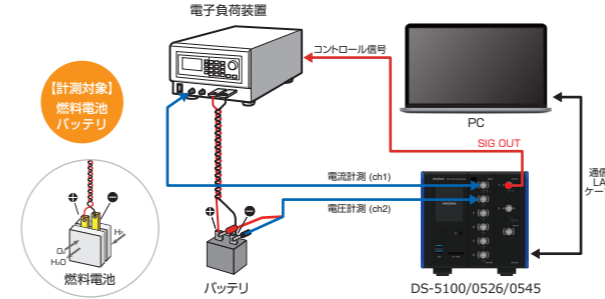
FRA方式



バッテリーの交流インピーダンス測定

バッテリーを評価する方法として交流インピーダンス法があります。この方法は、バッテリーを破壊や分解することなく、電池のインピーダンス(電極の劣化など)特性を評価することができる手段の一つです。バッテリーに交流電流負荷を印加し、電圧と電流を測定することによって交流インピーダンスを計測することができます。FRA方式を使用することで広いダイナミックレンジで、高精度に計測することができます。また、バッテリーの劣化原因の推定に役に立つコイル・コイルプロットを表示できます。計測結果をシミュレーションソフトなどに移行しやすいようにファイル形式に汎用性のあるUFFファイルやHDF5形式を採用しています。 ※本計測時は、電子負荷装置や電流プローブが必要です。

計測システム

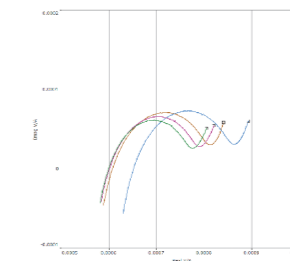


高速低電圧電子負荷装置 ELL-355 (株式会社 計測技術研究所)

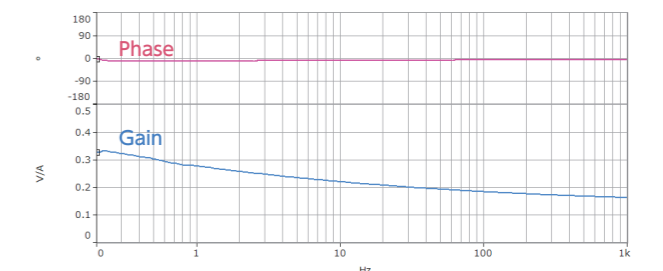


電力	350 W
電圧	30 V
電流	135 A
内部インピーダンス	3 mΩ/80 nH

計測結果イメージ
コイル・コイルプロット



コイル・コイルプロットは、周波数応答関数の実部を横軸に虚部を縦軸に描いたグラフです。等価回路の推定に役に立ちます。



基本構成



DS-5000のユニット一覧

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0501	バッテリーユニット
DS-0502	電源連動機能
DS-0523	3ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0532	2ch 100 kHz 入力ユニット
DS-0534	4ch 100 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch 外部入力ユニット
DS-0543	2ch 外部入力&1ch 信号出力ユニット
DS-0544	4ch 外部入力ユニット
DS-0545	2ch 信号出力ユニット

DS-5000シリーズデータステーションは、基本となるDS-5100 メインユニットに入力や信号出力、バッテリーなど各種ユニットを必要とする数量分追加することにより、用途や目的に応じた計測システムを構成する計測システムです。



外形寸法



周辺機器接続例

DS-5000シリーズ データステーション構成例

DS-5100	メインユニット	左ユニット
DS-0501	バッテリーユニット	中ユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット	右ユニット



特長

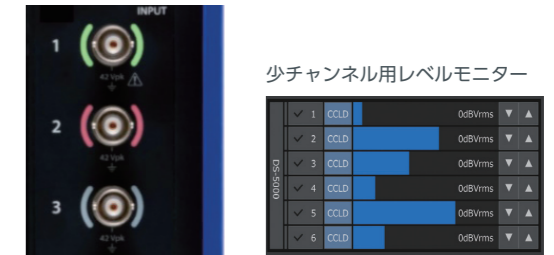
小型でも繋ぎやすい

ケーブルを接続しやすいピッチを採用しました。コンパクトなボディでも簡単に接続ができます。



入力のレンジオーバーに気づきやすい

コネクタの両サイドに円弧形状のLEDを採用。レンジオーバーしたチャンネルに気づきやすいです。ハードウェアでもソフトウェア上でもオーバーしたチャンネルに気づきやすいです。



簡単に持ち運べる

底面に凹みを設け、持ち運びしやすくしました。テーブル・台車・狭い場所などに設置しやすい形状です。



バッテリー駆動でどこでも計測可能

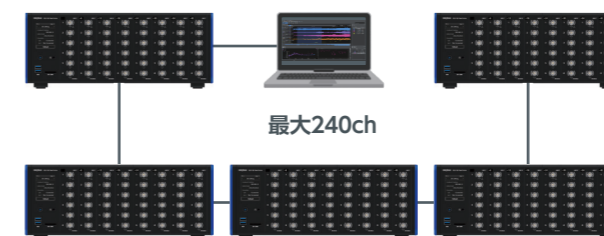
屋外や工場など、電源が用意できない様々な場所でも計測できます。6chの入力ユニットで約4時間の計測が可能です。
※バッテリーユニットはオプションです。

電源連動機能 (DS-0502) を搭載することで制御盤そのものの電源とDS-5000本体の電源を連動させる事ができます。
※バッテリーユニット (DS-0501) の搭載が必要です。



用途に合わせた計測システム構成が可能

スタック構造を採用し、用途に合わせたユニット構成が可能です。1筐体で最大48chの計測が可能。最大5台の筐体を接続でき、多チャンネル計測を実現します。



外部ノイズの影響を受けにくい

信号入力チャンネルごとに、アイソレーション(絶縁)を採用しました。グラウンドループ・ノイズ・電位差の発生しやすい現場や対象物でも安心して計測可能です。

音が聴ける安心感

メインユニットにヘッドホンモニター出力コネクタを搭載。計測信号を音で確認することができます。



単独収録機能

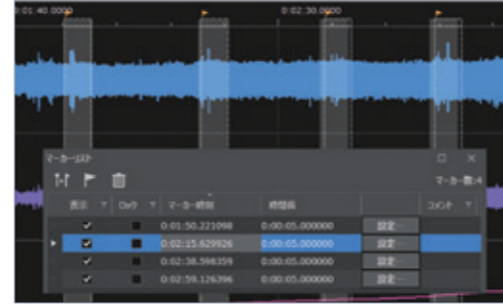
PCLレスで高精度な収録

DS-5000のみを計測現場に持っていき、収録作業を行うことが可能です。PC操作が困難な車載計測や、PCを持ち込めない現場などでのデータ収録に便利です。



マーカー機能で気になるところだけ解析

長時間収録したデータのうち、気になるところにマーカーを追加できます。またそのマーカーを基準に解析範囲を設定することができます。



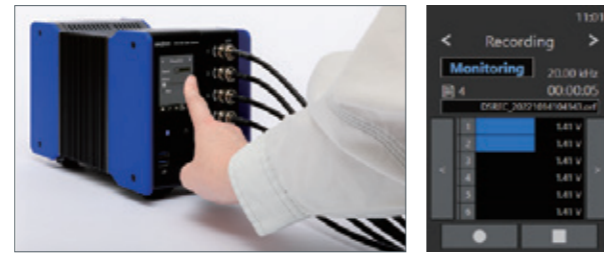
O-Solutionで事前に条件設定

予めO-Solutionで用意した条件ファイル(校正値や電圧レンジなど)をDS-5000にインポートしておくことで、DS-5000を高精度なデータロガーとして、PCLレスで使うことができます。



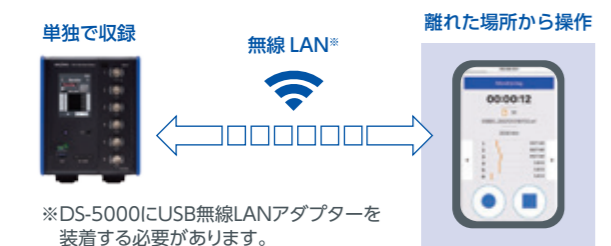
タッチパネルですぐに収録スタート

DS-5000のタッチパネルを使って、収録のスタート・ストップを簡単に行うことができます。



スマートフォン・タブレットから操作

単独収録時に収録や設定の確認・変更をしやすいように、スマートフォンやタブレット用のリモコンアプリを提供します。リモコンアプリはインストール不要で、Webブラウザさえあれば使うことができます。スマートフォンでも電圧レンジのモニタリングや計測開始停止の指示が可能です。



収録データをO-Solutionで詳細解析

収録データは、SDカードや外付けSSDに保存でき、O-Solutionへ収録データをインポートすることで詳細解析できます。



事例：屋外・工場での計測

バッテリーユニットと単独収録機能を使用することで、屋外や工場などの電源が用意できない場所でもすぐに音響・振動計測が可能です。

製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0501	バッテリーユニット

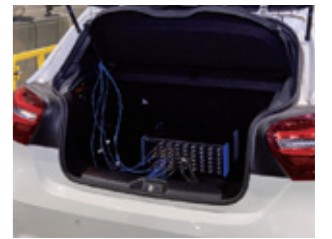
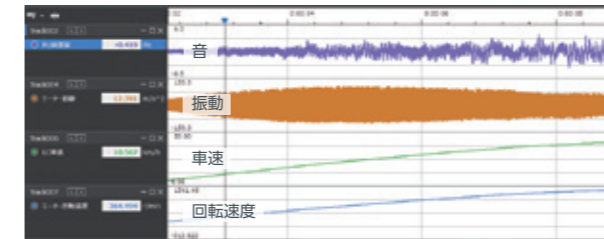


自動車走行時の音振動計測

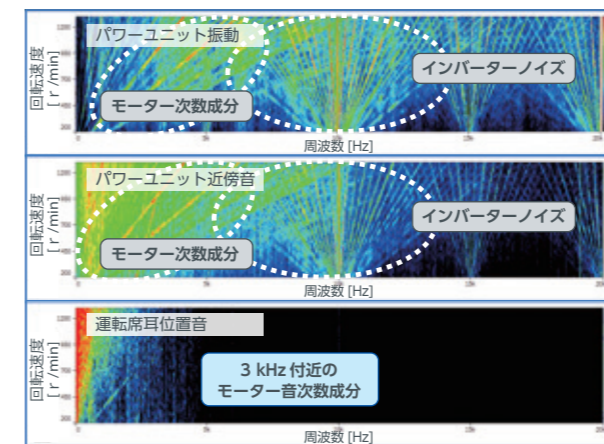
自動車走行時の音振動計測においてPCを操作するのは容易ではありません。単独収録機能を使うことで、収録を簡単に行うことができます。音や振動だけでなく、車速や回転速度などの自動車の走行状態を同時に収録することで、音や振動の発生原因を捉えることができます。収録後は、データをO-Solutionにインポートしてすぐに解析を行うことができます。

例：EVの緩加速時の音振動計測

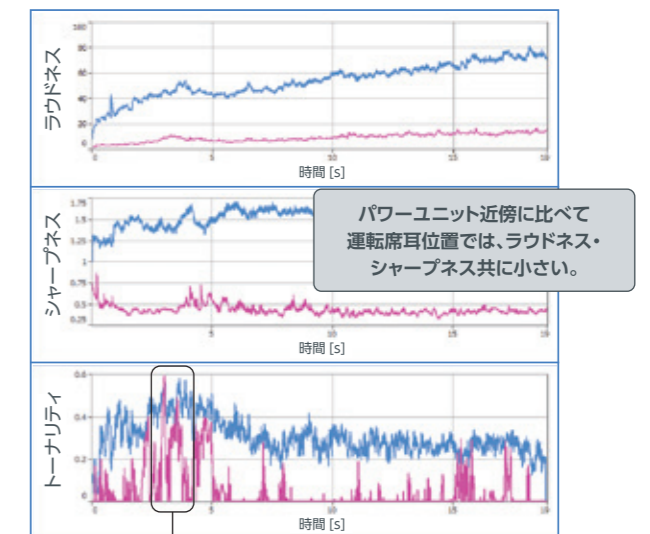
EVの加速時に運転席耳位置で聞こえる音の原因を探るため、運転席耳位置とパワーユニット近傍の音振動、回転速度、車速を同時に計測しました。



FFTトラッキング解析



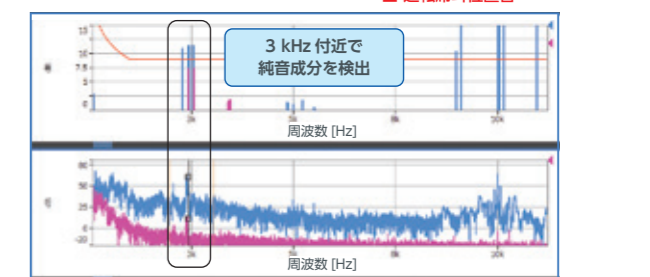
音質評価



製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch 外部入力ユニット
DS-0501	バッテリーユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT 解析機能
OS-0523	トラッキング解析機能
OS-0525	音質評価機能
OS-0512	ハードウェア接続機能

Prominence Ratio



超小型・超軽量3軸加速度センサー NP-3550

NP-3550は、業界最小・最軽量の超小型・超軽量3軸加速度センサーです。



感度	1.02 mV/(m/s ²) ± 20 %
周波数範囲	2 Hz~5 kHz(X)±5 % 2 Hz~8 kHz(Y)±5 % 2 Hz~8 kHz(Z)±5 %
質量	1.0 g
外形寸法	6.35(W)×6.35(D)×6.35(H) mm

超小型マイクロホン MB-2200M10

MB-2200M10は、今まで設置が困難だった空間でも音場への影響を与えずに使用できる超小型マイクロホンです。

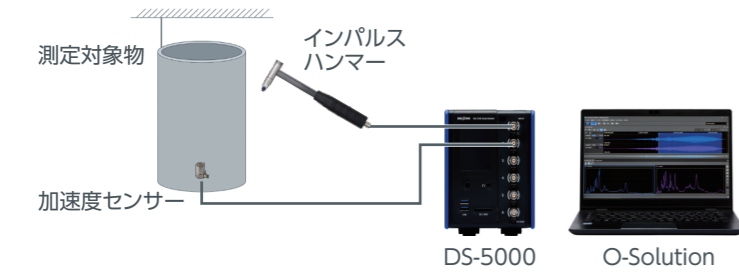


感度(1 kHz)	-37.0± 3 dB re. 1 V/Pa (14 mV/Pa)
周波数範囲(1 kHz 基準)	200 Hz~16 kHz (±2.5 dB)
自己雑音レベル	36 dB 以下(A特性)
外形寸法	センサー部:4.7(W)×7.1(D)×3.3(H) mm
質量	約 0.3 g(センサー部のみ)

固有振動数と減衰比測定

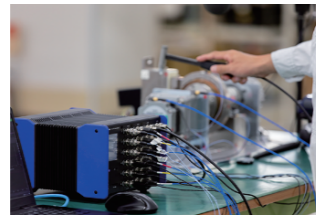
振動や異音の対策には、その対象物（機械や自動車部品などの構造物）が持つ固有の振動特性を把握することが重要です。O-Solutionは、インパルスハンマーや加振器を用いた加振実験で周波数応答関数を測定することができます。半値幅法やヒルベルト変換を用いて減衰比や対数減衰率を演算することもできます。

計測システム

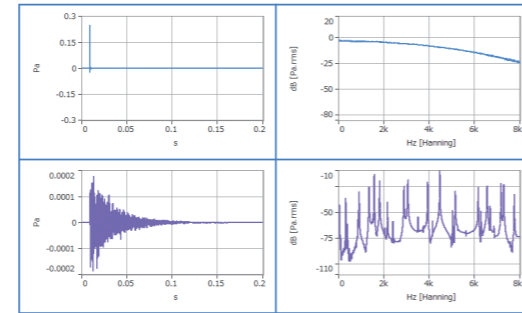


製品構成例

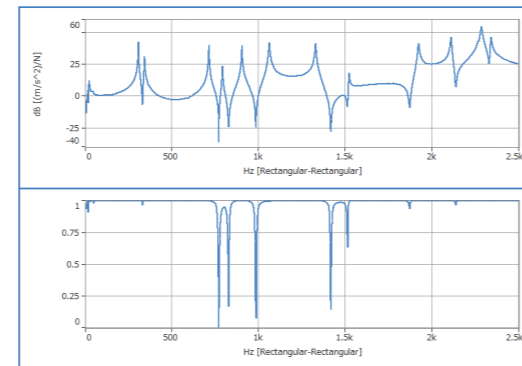
型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能



解析結果イメージ
ハンマリング試験



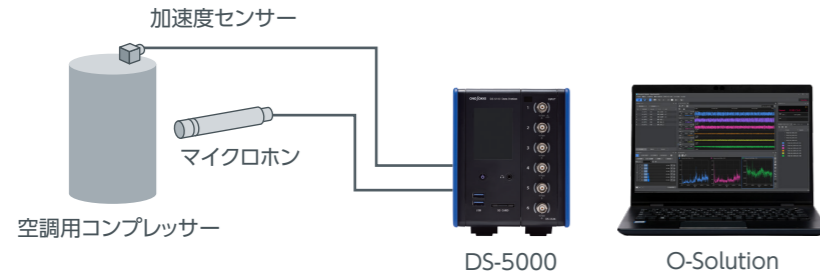
周波数応答関数・コヒーレンス



空調機器の静音技術開発向け計測

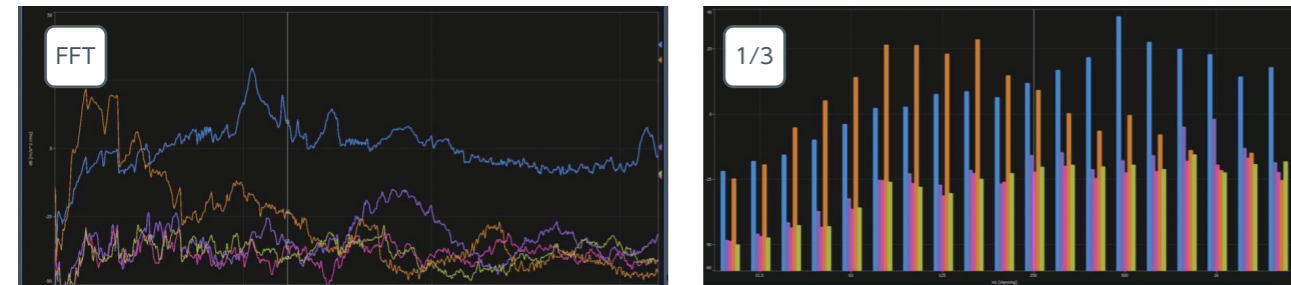
空調機器のメーカーでは、同時多点計測が求められます。FFTとオクターブ解析を同時に行うことで、対象となる周波数がわかるだけでなく、音と振動の同時計測にも有効です。

計測システム



解析結果イメージ

リアルタイムで、FFTとオクターブ解析が可能



製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0524	オクターブ解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能

騒音計を用いたモーターの音響解析

モーターから発生する音を高性能騒音計 LA-7000シリーズで収録し、O-Solutionで詳細に解析することができます。収録データ (wav形式) をO-SolutionへインポートすることでPC上で音の再生、周波数解析、オクターブ解析、人の聴感を考慮した音質評価の解析ができます。

計測システム

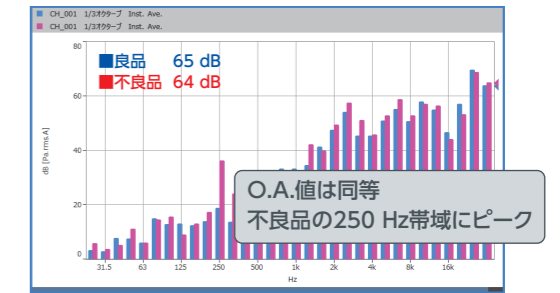


製品構成例

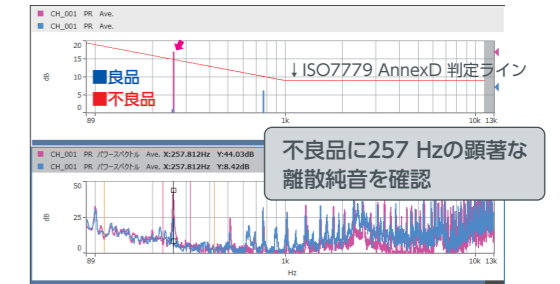
型名	品名
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0524	オクターブ解析機能
OS-0525	音質評価機能

解析結果イメージ

1/3オクターブ解析 A特性音圧レベル

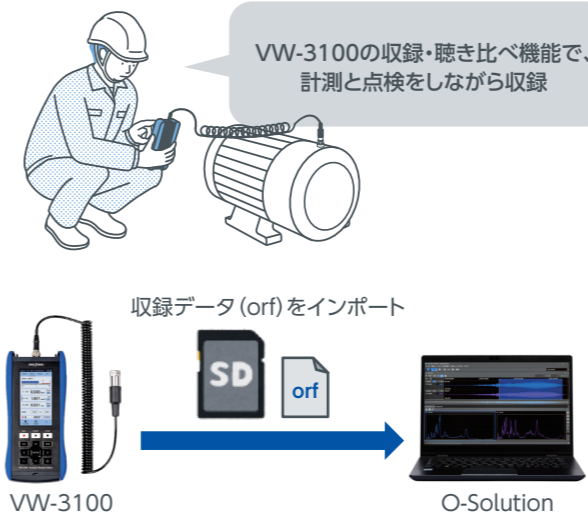


Prominence Ratio・パワースペクトル



ポータブル振動計を用いた異常振動の原因究明

ポータブル振動計 VW-3100は現場で計測や点検をしながら収録をすることができます。事務所に帰り、収録データをO-Solutionに取り込むことことで、フィルターをかけながら音を聴いたり、FFT解析で異常の原因を特定したりすることができます。

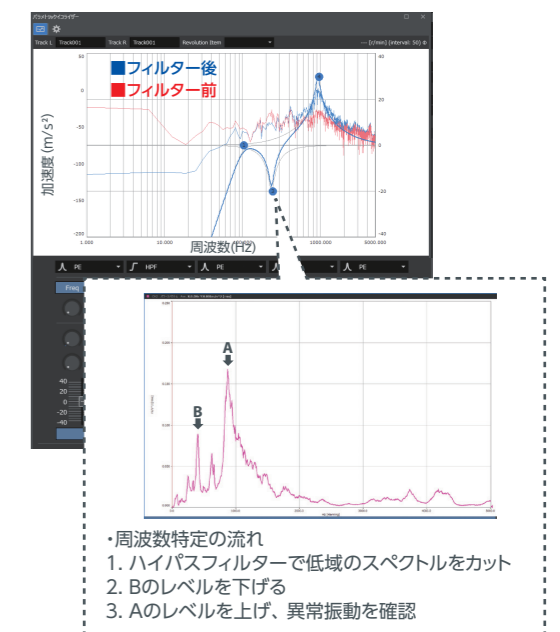


製品構成例

型名	品名
OS-5100	プラットフォーム
OS-0521	デジタルフィルター機能
OS-0522	FFT解析機能

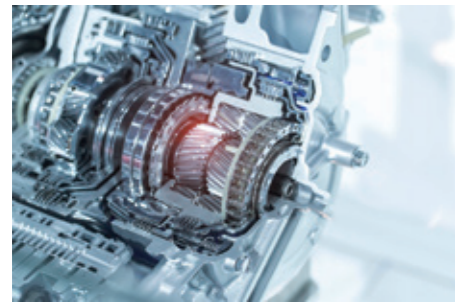
解析結果イメージ

IIRフィルター(パラメトリックイコライザー)

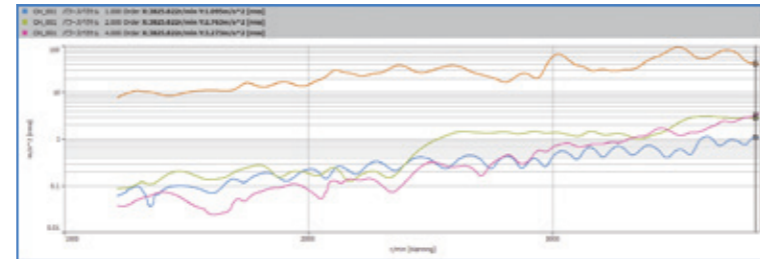


回転機器のトラッキング解析

モーター、発電機、トランスミッションなどの回転体から発生する音や振動について、トラッキング解析を行うことで各次数成分がどの回転速度で大きくなるかなどを把握することができます。インバーターが発するスイッチング信号を起点としたキャリアノイズのトラッキング解析(オフセットトラッキング)も可能です。



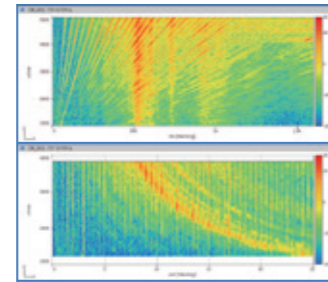
解析結果イメージ
トラッキング線図



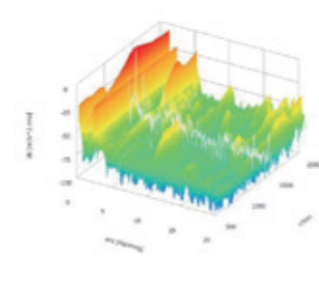
製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch外部入力ユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0523	トラッキング解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能

カラーマップ



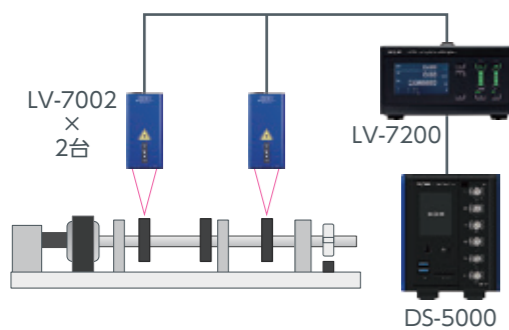
3Dグラフ



モーター、エンジンなどのねじり振動計測

エンジンのクランクシャフトやプロペラシャフトなどにおいてねじり振動が原因で軸の破損や騒音振動の問題を引き起こすことがあります。ねじり振動を計測し、対策を講じることが重要です。

レーザー面内速度計(LV-7200、LV-7002×2台)を用いることで、非接触で回転速度、速度差、速度ムラを測定することができます。

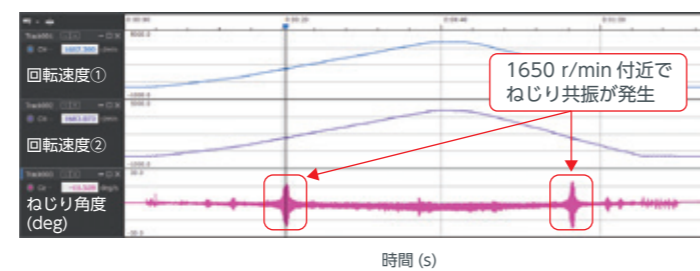


製品構成例

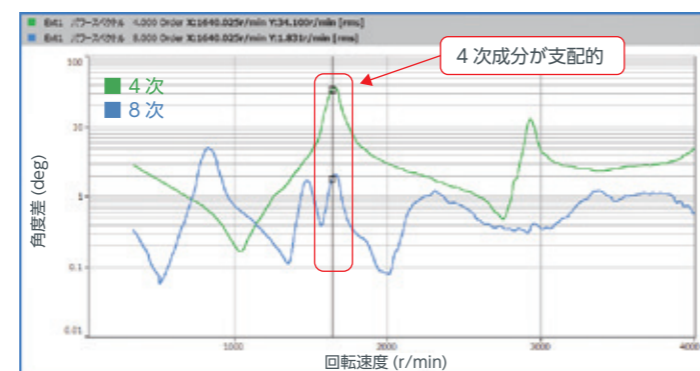
型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0523	トラッキング解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能

解析結果イメージ

時間波形



角度差のトラッキング解析(回転速度毎の次数変化)



試験装置(ベンチ)のデータ分析

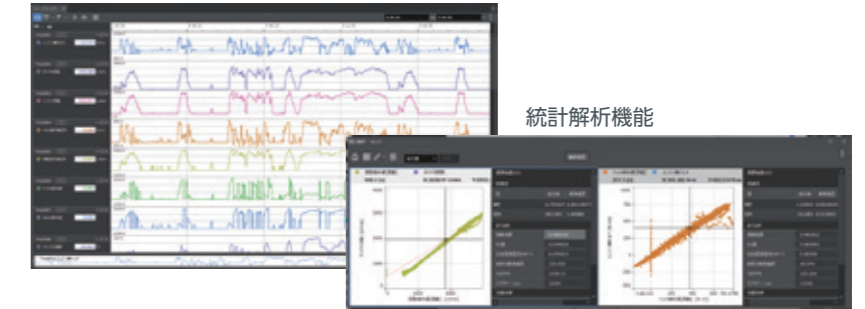
O-Solutionは、試験装置(エンジンベンチ、モーターベンチなど)で取得した大量かつ多チャンネルのデータを分析することができます。波形の拡大表示、データ検索、移動平均、実効値演算など様々な機能を搭載しています。OS-0531 統計解析機能を使用することで指令値と実測値の相関を求めることができます。



製品構成例

型名	品名
OS-5100	プラットフォーム
OS-0531	統計解析機能

解析結果イメージ



ダイナモ回転
相関関数 0.99

軸トルク
相関関数 0.98

自動車の車室内多チャンネル温度計測

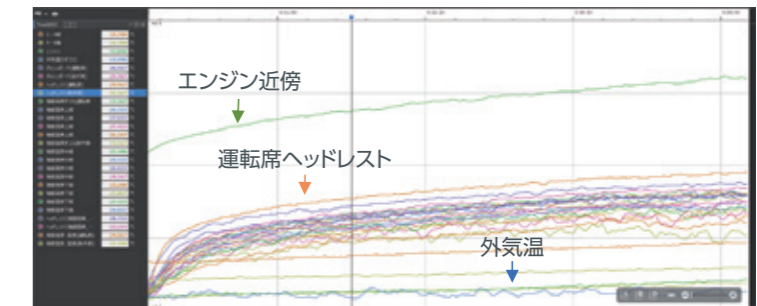
無線計測システム WC / WT / WVシリーズ で車室内の温度を計測し、その結果をO-Solutionで分析することができます。O-Solutionは、収録した大量で大容量なデータの波形表示、データの検索、移動平均など様々な演算が容易にできます。



製品構成例

型名	品名
OS-5100	プラットフォーム

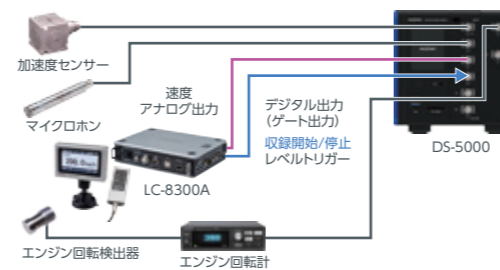
解析結果イメージ



エアコン(暖房)をつけた際の温度変化

実車NV試験

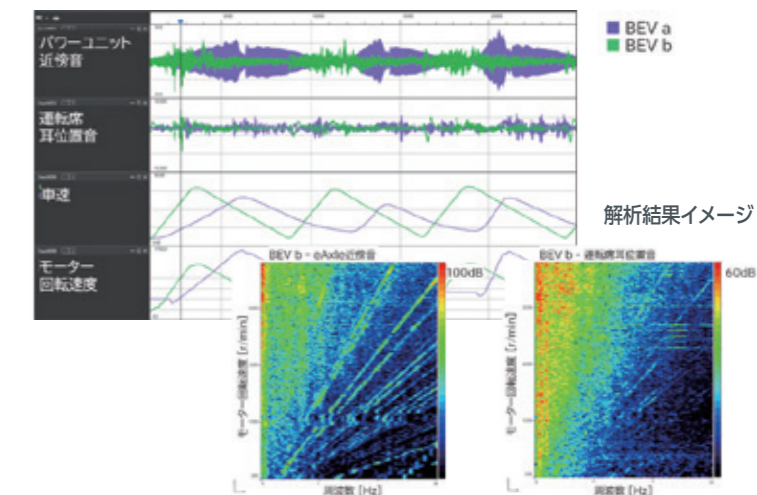
FFTアナライザーとGPS速度計を組み合わせ、実車NV試験を行います。GPS速度計 LC-8300Aのデジタル出力をDS-5000に入力してトリガーをかけ、同期収録を実行。LC-8300Aの豊富な機能を用いて自動で収録開始/停止することで、再現性よく試験を行うことができます。



製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch外部入力ユニット
DS-0501	バッテリーユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0523	トラッキング解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能

計測結果イメージ



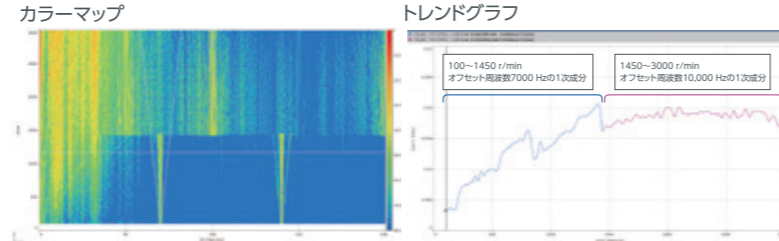
オフセットトラッキング解析

部品の電動化が進む各自動車部品メーカーでは、インバーターのキャリア周波数を意図的に変化させることで部品自体の固有振動数や次数成分が高くなることを避け、不快な音が発生しないよう対策を講じています。その回転に応じたキャリア周波数の変化に追従し、次数比分析を行うのがオフセットトラッキング解析です。

製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch 外部入力ユニット
DS-0501	バッテリーユニット
DS-0502	電源連動機能
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0523	トラッキング解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能

計測結果イメージ(定幅トラッキング解析)

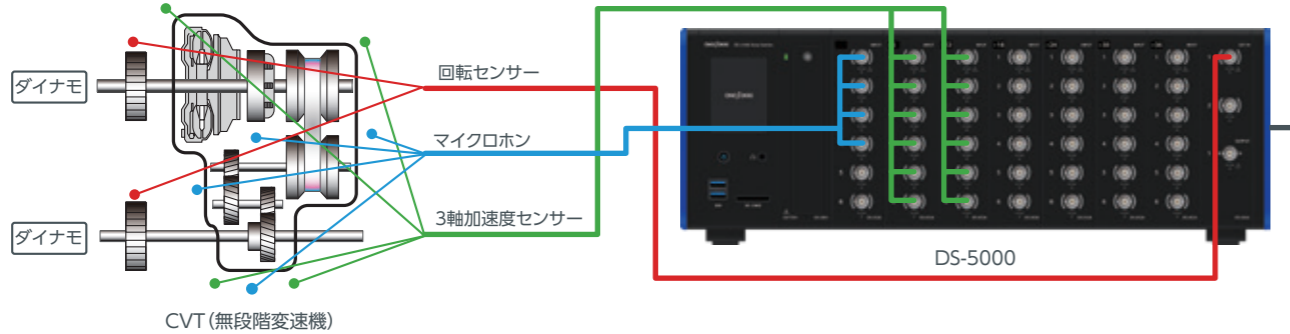


オフセット周波数、回転速度の下限・上限範囲を指定することで、ある回転速度で段階的にキャリア周波数が変化しても、特定の次数の解析が可能です。

ノイズテストソフトウェアとの連携

異常診断用のコンパレーター機能付きソフトウェア(GN-1200)とDS-5000を組み合わせ使用することができます。多チャンネル計測に有効です。
データの計測、回転 2 入力による周波数解析/トラッキング解析と同時に良否判定が可能です。CVT (無段階変速機)の振動解析や、モーターのキャリアノイズ解析などのインラインでの全数検査に最適です。

システム例



製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch 外部入力ユニット
DS-0501	バッテリーユニット
DS-0502	電源連動機能
GN-1200	ノイズテストソフトウェア

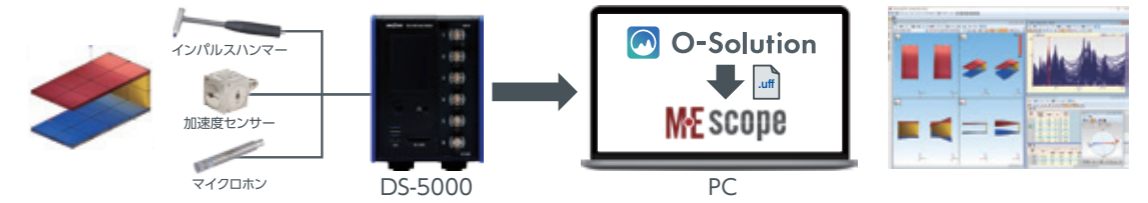


GN-1200 ノイズテストソフトウェア

最大ch数	32ch
周波数分析レンジ	40 kHz (2~8ch)、20 kHz (10~16ch)、10 kHz (18~32ch)
周波数解析	FFT 6400ライン/束ねオクターブ
最大解析次数	1600次
回転基準	回転1 / 回転2 / 回転1と回転2 に計算回転速度

GN-1200は、閾値を設定し解析したデータの良否判定、計測した信号の同時解析、通信機能を使った自動計測等に有効です。生産ラインのタクトタイムを削減します。

機械・構造物の振動／音響現象の実験データを簡単にアニメーション化



構造物が振動にさらされると、固有振動数が励振されて疲労や破壊の原因になることがあります。例えば、回転機械の回転周波数と機械の固有振動数が一致した場合、その機械は共振し、大きな振動が発生します。MEscopeは、このような構造物の固有振動数と共振の状態を解析する「実験モード解析システムソフトウェア」です。

また 機械・構造物の静的／動的な振動挙動を解析するだけでなく、音圧レベルのカラーコンター表示も可能なため、振動による騒音のトラブルシューティングにも活用できます。

特長

O-Solution等のフロントエンドで取得した振動・音響データをMEscopeで3Dアニメーション表示

振動挙動を可視化することで振動問題が分析しやすくなります。
振動挙動だけでなく、音圧レベルのデータによるカラーコンター表示も作成可能です。

機械・構造物の振動の実稼働解析や実験モード解析が可能

実稼働解析: 機械や構造物など、実際に稼働している状態での振動特性を把握することを目的に、稼働状態のデータを測定し、時間領域または周波数領域で可視化すること

実験モード解析: 機械や構造物など、振動特性を把握することを目的に、ハンマリング等の加振実験からFRF(周波数応答関数)を取得し、カーブフィッティングからモードパラメーター(固有振動数、固有モード形状、固有モード減衰比)を抽出すること

実験目的と計測システム

実験目的	計測システム	解析結果
<ul style="list-style-type: none"> 稼働状態で課題となる音の周波数と部位を特定したい 	<ul style="list-style-type: none"> 計測用マイクロホン Mシリーズ 超小型マイクロホン MB-2200M10 	<ul style="list-style-type: none"> 音圧レベルのカラーコンター表示
<ul style="list-style-type: none"> 稼働状態で課題となる振動の周波数と部位を特定したい 	<ul style="list-style-type: none"> アンプ内蔵型加速度センサー NP-3000シリーズ 回転計 トルク計 ※必要時 	<ul style="list-style-type: none"> 実稼働解析
<ul style="list-style-type: none"> 振動原因が固有振動の影響か把握したい FEMとのコリレーション把握 	<ul style="list-style-type: none"> インパルスハンマ GKシリーズ アンプ内蔵型加速度センサー NP-3000シリーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 実験モード解析

DS-5000 → O-Solution → MEscope

<ul style="list-style-type: none"> A特性付1/3オクターブレベル 	<ul style="list-style-type: none"> ODSFRF(位相付パワースペクトル) 	<ul style="list-style-type: none"> 周波数応答関数(加速度/力)
---	---	--

※ MEscope 実験モード解析システムは、株式会社システムプラス様の製品です。

ソフトウェア構成

MEscope はベースパッケージ (VT-620) とオプションを組み合わせることで、必要に応じた構成を選ぶことができます。

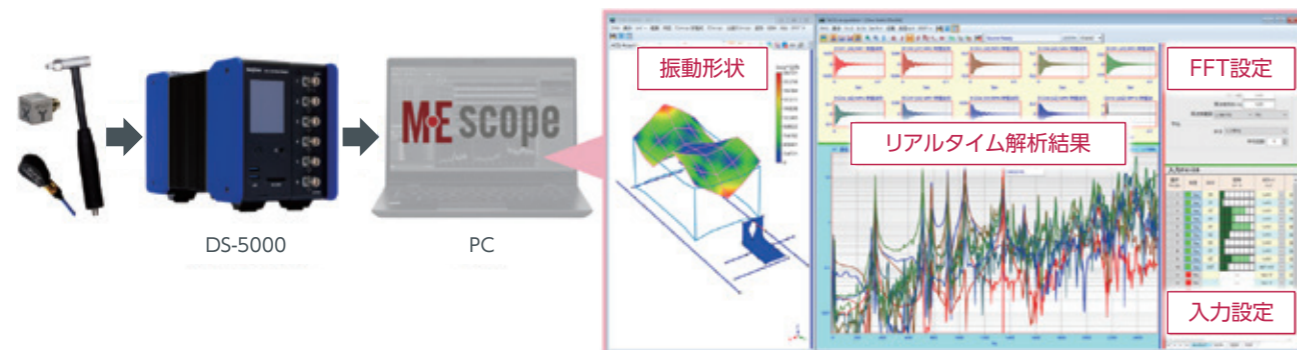


品名	機能の概要	パッケージ						
		VT-420	VT-570	VT-550	VT-540	VT-560	VT-440	VT-450
ベースパッケージ VT-620 実験モード解析	3Dモデル作成を簡単に作成 作図アシスタント、背景画像の読み込み、外部ファイルインポート 読み込みデータのグラフ表示 様々なファイル形式をサポート (dat, UFF 等) アニメーション表示 時刻歴・周波数領域のアニメーション、2種データの比較アニメーションも可能	●	●	●	●	●	●	●
オプション VES-3600 高度信号処理	実験モード解析、音圧マップの作成をアシスト ODSFRFの計算等、FFT信号処理機能、単位変換 (微積分、rms⇔0-pk など) 音データの解析機能 A特性等の重み付け、東ねオクターブ、逆フーリエ変換などが充実	●	●	●	●	●	●	●
VES-4000 モード解析	対象物が平板やディスクなど、立体構造でも加振方向が1方向で良い場合 1点参照の実験モード解析、2種のデータ間のMAC (モード相関関数) の計算	—	●	●	●	●	—	—
VES-4600 高度モード解析	対象物が立体構造の場合や、数値解析との相関取りをしたい場合 多点参照の実験モード解析 豊富なカーブフィット関数 近接モードや重解に対応。極抽出 (周波数・減衰比) の安定度を示す スタビリティダイアグラム機能	—	—	●	—	●	—	—
VES-5000 構造変更	設計変更による効果を予測したい 実験結果のある測定点に質量やばねを加えた際の特性変化を予測計算 ※実験の測定点数に基づくため精度が低下します。高精度な解析にはCAEツールを推奨します。	—	—	—	●	●	—	—
VES-9000 ビデオプロセッシング	動画ファイルから簡単に振動特性を抽出したい 高速カメラやスマートフォンの動画ファイルから振動特性を抽出し ODSアニメーション化する機能	—	—	—	—	—	●	●
パッケージに含まれないオプション VES-8000 FEA解析&モデル アップデート	FEMなどの数値解析 ※モデル規模の制約などがあり参考値です。高精度な解析にはCAEツールを推奨します。	—	—	—	—	—	—	—
VES-1000 日本語表示オプション	メニューやダイアログ等を日本語表示	—	—	—	—	—	—	—
VES-700 データ収集オプション	DS-5000を直接制御して実験データを収集する機能	—	—	—	—	—	—	—

データ収集オプション: VES-700

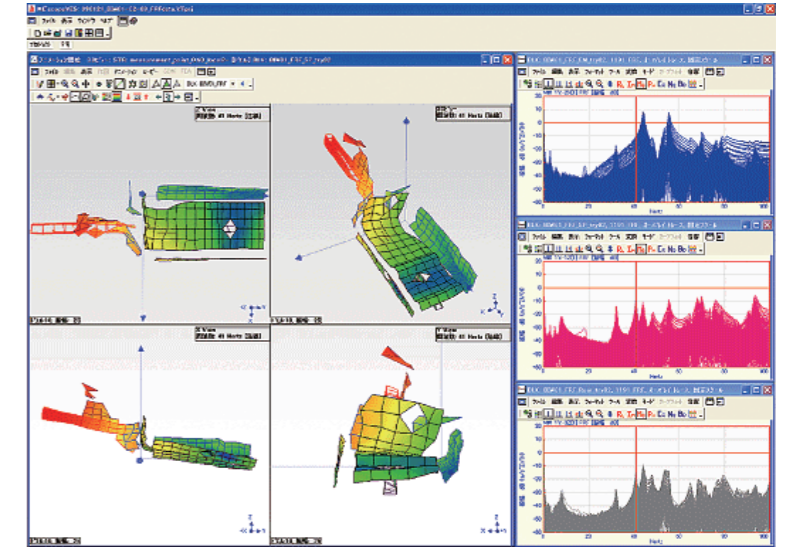
計測からアニメーションまでを1つのソフトウェアで完結

計測しながら即座に振動形状を把握でき、作業時間を短縮できます。振動計測に必要な設定を集約したわかりやすい操作画面です。



実験モード解析を用いたシミュレーションモデルのアップデート

DS-5000 + MEscope (実験モード解析システムソフトウェア) の組み合わせにより、自動車ボディ等の構造物の固有振動周波数、および振動形状を可視化することができます。DS-5000で多点同時測定を行い測定時間を大幅に短縮することができます。



製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0545	2ch 信号出力ユニット
VT-550	MEscope (実験モード解析システムソフトウェア)
VES-700	データ収集オプション
VES-1000	日本語表示オプション

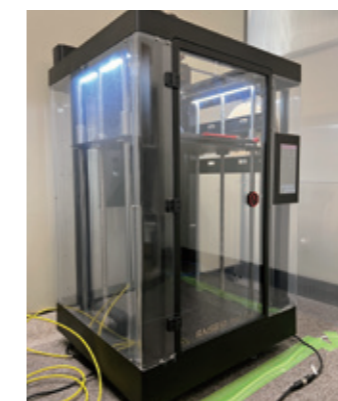
多点参照多自由度法(MIMO)で得られたモーダルパラメータは、CAEモデルのアップデートに使用できます。



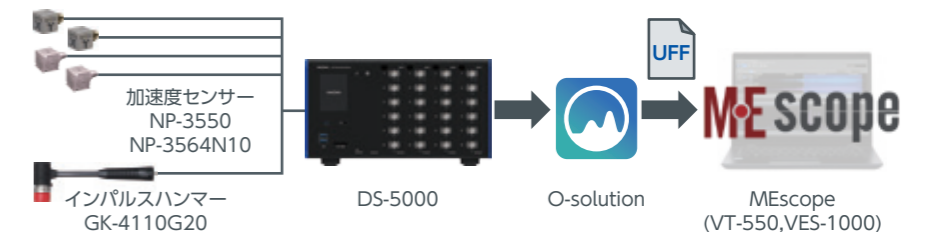
精密機器設置床や定盤の固有振動測定 (実験モード解析)

工作機械の高精度化・高機能・多軸化、さらに超高速加工が求められる中、破損や品質問題の背景には振動問題があり、稼働時の振動状態や固有振動の把握が必要です。O-solution + MEscopeで振動形状を把握することで、共振現象が発生していないか確認できます。

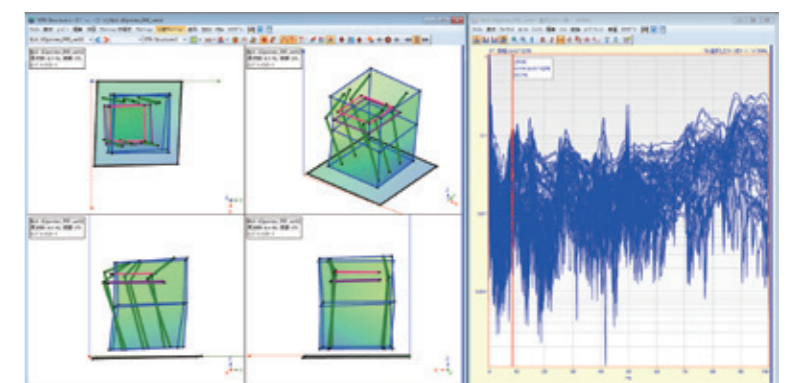
計測システム



測定対象物: 3Dプリンター



解析結果イメージ



- 振動現象把握
- 発生部位特定
- 発生原因究明
- 低減方法案出
- 対策後効果確認

工作機ロボットアームやステージ等の位置によって、固有振動数、固有モード形状は常に変化するため実験モード解析が効率的です。

製品構成例

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0501	バッテリーユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
OS-5100	プラットフォーム
OS-0522	FFT解析機能
OS-0512	ハードウェア接続機能
VT-550	MEscope (実験モード解析システムソフトウェア)
VES-1000	日本語表示オプション

DS-5000

メインユニット (DS-5100)	
システム構成	
最大入力チャンネル数	40 kHzシステム 48ch ^{*1} 100 kHzシステム 4ch
最大外部入力チャンネル数 (回転・トリガー)	40 kHzシステム 4ch ^{*2} 100 kHzシステム 4ch
最大出力チャンネル数 ^{*3}	40 kHzシステム 6ch 100 kHzシステム 2ch
入出力ユニット最大数 ^{*4}	40 kHzシステム 8ユニット 100 kHzシステム 3ユニット
筐体間接続台数	40 kHzシステム 5筐体 100 kHzシステム なし
インタフェース	
タッチパネル付きLCD	・ステータス表示 ・バッテリーステータス 等
LAN RJ45コネクタ	接続端子 2箇所 ・PCとの接続用 ・筐体間接続用
筐体間接続コネクタ	2台以上メインユニット間を接続 IN×1 / OUT×1
ヘッドホンモニター用 出力コネクタ	ステレオφ3.5 コネクタ

※1 搭載するユニットが全て入力ユニットの場合

※2 筐体間接続時はPCと接続された筐体の先頭から10chまで

※3 PCと接続された筐体のみ

100 kHzユニットの場合 DS-0543とDS-0545の両方を搭載することはできません。

※4 メインユニット及びバッテリーユニット除く

40 kHz入力ユニット (DS-0523/0526) 100 kHz入力ユニット (DS-0532/0534)	
入力チャンネル数	[40 kHz] DS-0523: 3ch ^{*5} DS-0526: 6ch [100 kHz] DS-0532: 2ch ^{*5} DS-0534: 4ch
入力端子	BNC
入力インピーダンス	1 MΩ±0.5 % 100 pF以下
入力結合	DCまたはAC ・0.5 Hz±10 %にて-3 dB ・定電流駆動 (CCLD) 使用時はACに自動設定
アイソレーション	42.4 Vpk BNCグラウンド-筐体間および各BNCグラウンド間
定電流駆動 (CCLD)	+23 V~26 V / 4 mA±25 % (25 °C)
TEDS機能	・IEEE 1451.4 Ver.0.9, 1.0 加速度センサー、マイクロホン ・IEEE 1451.4 Ver.1.0 カセンサーに対応
入力電圧レンジ	-30 / 0 / +30 dBVrms (3レンジ)
絶対最大入力電圧	50 Vpk (DC~100 kHz)
入力レベルモニター	過大入力で赤色LED点灯 (レンジFSで点灯)
周波数範囲	[40 kHz] DC~40 kHz [100 kHz] DC~100 kHz
サンプリング周波数	周波数レンジの2.56倍
A/D変換器	24 BitΔΣ型
ダイナミックレンジ	[40 kHz] 130 dB 40 kHzレンジ, 0 dBVレンジ, 4096点分析, 1 kHz以上 [100 kHz] 120 dB 100 kHzレンジ, 0 dBVレンジ, 4096点分析, 1 kHz以上
チャンネル間位相精度	筐体内チャンネル ・20 kHz未満 ±0.1° ・20 kHz以上 ±0.7° 筐体間接続時 (40 kHzのみ) ・20 kHz未満 ±0.6° ・20 kHz以上 ±1.2°

※5 DS-0523, DS-0532は2ユニット以上搭載不可

外部入力ユニット (DS-0542/ DS-0544)	
入力チャンネル数	DS-0542: 2ch DS-0544: 4ch
最大外部入力ch数 ^{*6} (回転・トリガー)	40, 100 kHz共に4chまで ・DS-0542×2ユニット不可 ・DS-0543と混在可能
最大入力電圧	30 Vrms (42.4 Vpk)
絶対最大入力電圧	50 Vpk
ヒステリシスレベル	任意設定 ・初期値0.5 V ・範囲0.02~80 V
入力パルス数/回転	0.5~3600 P/R
入力パルス分周機能	1~3600分周 入力周波数が4 kHz以上必須
入力結合	ACまたはDC
入力インピーダンス	100 kΩ ±0.5 %
アイソレーション	42.4 Vpk BNCグラウンド-筐体間および各BNCグラウンド間
入力周波数	最大300 kHz (帯域外フィルター付き)

※6 筐体間接続時はPCと接続された筐体の先頭から10chまで

信号出力ユニット (DS-0545)	
出力チャンネル数	2ch 40 kHz 6chまで ・DS-0545は3ユニットまで ・DS-0543と混在可能 ・筐体間接続時はPCと接続された筐体のみ使用可能
最大出力チャンネル数	100 kHz 2chまで ・DS-0545は1ユニットまで ・DS-0543と混在不可能
出力信号種類	・正弦波 ・スウェプトサイン ・ランダム (チャンネル間無相関) ・擬似ランダム ・インパルス ・オクターブバンドノイズ ・ピンクノイズ ・レコードデータ
適応FFT解析長	64~16384 (2のべき乗)
バースト機能	有り (連続、単発)
テーパ機能	有り
出力端子形状	BNC
出力インピーダンス	0 Ωまたは50 Ω ±10 %
D/A変換器	24 bit ΔΣ型
アイソレーション	42.4 Vpk BNCグラウンド-筐体間および各BNCグラウンド間
出力電圧振幅	±1 mV~±10 V
オフセット電圧	±10 V
最大出力電流	10 mA
周波数範囲	40 kHz: 0~40 kHz 100 kHz: 0~100 kHz

外部入力・信号出力ユニット (DS-0543)	
入力チャンネル数	2ch ^{*7}
最大出力チャンネル数	1ch ^{*8}

※7 外部入力2ch構成 仕様はDS-0542, DS-0544と同等

※8 信号出力1ch構成 仕様はDS-0545と同等

バッテリーユニット (DS-0501)	
外部DC電源入力電圧	DC10~28 V
バッテリーパック (付属品)	リチウムイオンバッテリーパック RRC社製 RRC2020 99.6 Wh 1個
駆動時間	約4時間 ・外気温25 °Cにおいて ・DS-5100&DS-0526の時
充電時間	約4時間 ・本体電源OFF時 ・バッテリーパック残量0 %時
専用充電器 (別売)	RRC社製専用充電器
外部DC電源用 ケーブル (別売)	5 m (ワニグチ、ヒューズ付き)

一般仕様 (最小~最大構成)	
外形寸法 (突起部含まず)	130~450 mm (W) × 160 mm (H) × 220 mm (D)
消費電力	67 W以下
使用温度範囲	-10~50 °C (湿度20~80 %RH, 結露なきこと)
保存温度範囲	-20~60 °C (湿度20~80 %RH, 結露なきこと)
質量	最小構成 2,800 g ・DS-5100&DS-0526 最大構成 8,900 g ・DS-5100&DS-0501&DS-0526×8
冷却ファン	あり (静音ファン) DS-5000 48ch構成で音響パワーレベル (Lw A-weighted) 38 dB以下 内部温度上昇時のみ動作します。
適合規格 (CEマーキング)	低電圧 (LVD) 指令2014/ 35/ EU 規格EN61010-1 EMC 指令2014/ 30/ EU 規格EN61326-1 RoHS 指令2011/ 65/ EU 規格EN IEC 63000

付属品	
AC電源アダプター:	1個
ACアダプター用電源ケーブル:	1本
LANケーブル (3 m):	1本
DS-5000シリーズ データステーションとパーソナルコンピューターとの接続用ケーブル	
取扱説明書:	1冊

ACアダプター	
入力電圧/電流	AC100~240 V 50-60 Hz / 1.2 A MAX.
出力電圧/電流	DC19 V / 4.74 A

単独収録機能 推奨品	
無線LANモジュール	TL-WN725N

※推奨SDカード、外付けSSDに関する最新情報は弊社HPをご覧ください。

OS-4100 (ハードウェア)		
計測チャンネル数	40 kHzユニット 3~42ch 100 kHzユニット 2~4ch	
ダイナミックレンジ	40 kHzユニット FRA方式: 160 dB FFT方式: 130 dB 100 kHzユニット FRA方式: 160 dB FFT方式: 120 dB	
出力電圧	10 V (出力電圧及びオフセット電圧 合計±10 V以下)	
出力信号の種類	サインスイープ (Log/Lin)、スエプトサイン、疑似ランダム、ランダム、インパルス、パルス (ステップ応答用)	
加算アンプ機能	DS-0545に搭載 (MIX IN)	
カップリング	AC/DC自動切換機能付き	

OS-4100 (ソフトウェア)		
計測周波数範囲	40 kHzユニット 10 mHz~40 kHz 100 kHzユニット 10 mHz~100 kHz	
演算方式	FRA方式: サインスイープ (Log/Lin) FFT方式: ランダム、疑似ランダム、スエプト、インパルス、	
周波数分解能	FRA方式: Log 2~ 2000 (Line/Decade) Lin 200~25000 (Line/Total) FFT方式: 最大サンプル点数 65536	
FRA方式搭載機能	出力振幅コントロール機能 周波数分割設定機能 (最大30分割) オート分解能コントロール機能	
FFT方式搭載機能	ベアレレンジ	
搭載演算機能	ゲイン余裕位相余裕 損失係数、減衰率、 カットオフ周波数自動検索 ステップ応答 (遅れ時間、オーバーシュートなど)	
グラフ表示	ボード線図、時間波形、パワースペクトル、ナイキスト線図、 コグアド線図、ニコルス線図、コールコールプロット	

O-Solution

ビューアー(O-Solution Lite)

O-Solution Liteはライセンス不要で使用可能。DS-5000があればデータ収録ができます。OS-5100に時系列データに対する基本的な演算処理機能が搭載されています。

用途に合わせて、各オプションを追加してください。

計測モードでオプションを使用する場合はOS-0512が必要です。

時系列データ収録(計測モードのみ)	
レコーディング性能 (ch数は外部入力chを含む)※1※2	1~20ch: 40 kHz
	21~40ch: 25 kHz
	41~120ch: 20 kHz
	121~240ch: 10 kHz
	1~4ch(100 kHz入力ユニット使用時): 100 kHz

※1 単独収録の場合、1筐体のみ対応です(上限ch数は48chまで)。

※2 単独収録の場合、40 kHzの上限ch数は18chまでです。40 kHz以外の上限ch数は上表の通りです。

プラットフォーム(OS-5100)
対応データ

サンプリング周波数	計測モード	DS-5000シリーズ データステーションで取得できる時系列データになります。 ・40 kHz 入力ユニット (DS-0523/DS-0526): 2.56 Hz~102.4 kHz (周波数レンジ: 1 Hz~40 kHz) ・100 kHz 入力ユニット (DS-0532/DS-0534): 2.56 Hz~256 kHz (周波数レンジ: 1 Hz~100 kHz)
	解析モード	10 μHz~100 GHz (周波数レンジ: 3.9 μHz~39 GHz)
時系列データインポート	ファイル数	最大1000ファイル
	チャンネル数	最大65536チャンネル
	データ点数	最大1 TB
ファイルインポート形式 (時系列データ)	・ORFXファイル ・ASCII ファイル ・WAVE ファイル ・MDF ファイル ・ORF ファイル ・FAMS ファイル ・UFFファイル ・グラフテック GBDファイル ・ティアック TAFFmat ファイル ・日置電機 MEMORY RECORDER ファイル ・横河計測 WDF/WVF ファイル	
	ファイルインポート形式 (解析データ)	・DATXファイル ・DAT ファイル ・TEXT ファイル ・TRC ファイル
	ファイルエクスポート形式 (時系列データ)	・ORFXファイル ・CSVファイル ・WAVE ファイル ・UFFファイル ・PNGファイル(画像)
	ファイルエクスポート形式 (解析データ)	・DATXファイル ・UFFファイル ・CSVファイル ・TEXTファイル ・PNGファイル(画像)
	概要	FFT解析の実行前に取得した時間波形に演算処理する機能
	デジタルフィルター	LPF、HPF、BPF、A特性、C特性 ・LPF、HPF、BPFは全て6次のバターワースフィルター BPFも6次のフィルター係数のため、傾斜は-36 dB/octではなく、-18 dB/octになります。
	絶対値	○
時間軸微積分	1階微分、2階微分、1重積分、2重積分	
積分前DC除去機能	○	

トリガー		
ソース	計測モード	内部、外部、レベル
	解析モード	Item
モード	Repeat, OneShot	
動作	スタート、ストップ、スタート&ストップ	
その他	ダブルハンマーキャンセルを搭載	
	平均Undoを搭載	
	プレレコーディング機能を搭載 ・トリガーを検出する数秒前よりレコーディングが可能	
	収録中にトリガー機能を用いてデータの取得が可能	
	表示機能(タイムモニターおよび時間波形)	

収録(計測モードのみ)	
解析同時レコーディング	収録しながら解析する機能 ※解析を実行するにはオプション機能が必要
プレレコーディング機	トリガーがかかる数秒前から収録を開始できる機能
トリガー停止機能	トリガー機能を用いて収録を停止する

データ設定(解析モードのみ)

信号補正	基準信号に対する校正が可能
レベル調整	インポートしたデータに対して任意のレベルに調整
	スケール: デシベル、リニア
	レベル調整方法: 目標値、増減比率(2つ以上選択した場合) スペクトル表示形式: rms、0-Peak、Peak-Peak
時系列位置合わせ	時系列データの位置を揃えることが可能 ・2種類以上の計測器を用いて収録する際に収録タイミングが異なるデータについて、データ毎の位置を揃える必要があります。 ・基準信号にトリガーを設定してデータ毎の位置を揃えることが可能です。
ファイル編集	基準区間: 全区間もしくは任意設定 対象Itemと同じファイルの全Itemに実行が可能 位置合わせした時刻にマーカーを配置
異なるファイルに記録された時系列データの編集が可能	

時系列演算(解析モードのみ)

リサンプリング	取得した時系列データを任意のサンプリング周波数に変更可能 アルゴリズム: 環状畳み込み内挿法と直線補間法
パルスコンバーター	回転パルス信号を回転速度へ変換可能 1回転あたりのパルス数の設定が可能 単位: r/min, km/h, m/min, m/s
イベントカウンター	検索条件をカウンタデータに出力可能
移動平均	任意平均回数で移動平均処理が可能
時間軸微積分	1階微分、2階微分、1重積分、2重積分、積分前DC成分除去機能搭載、単位変換機能搭載
実効値演算	周波数重み付補正、時定数、出力時間間隔を設定可能
ヒルベルト変換	振幅、位相、瞬時周波数に変更可能
異常回転速度除去	閾値を設定し、異常な回転速度データを除去することが可能
周波数重み付け補正	A、C、G、Vv、Vh
時系列Item間演算	各Itemのデータ同士で演算が可能
統計トレンド演算	統計結果のトレンド演算が可能

統計処理ウィンドウ	
統計値	差分値/合計値/平均値/中央値/最大値-最小値/最大値/最小値/標準偏差/実効値/極大値-極小値/極大値/極小値/歪度/尖度/波形率/波高率/絶対値平均値/面積/面積+/面積-/左端値/右端値
ファイル出力	CSV出力
その他	スコアウィンドウの選択範囲と連動

解析結果平均

概要	解析データから任意のアイテムを選択して、重ね合わせグラフ表示、平均値、O.A.の最大値、最小値を確認できる機能
Item間連動	・ON: チェックが付いているファイル間で同じItem同士を平均化 ・OFF: チェックを付けたアイテム全てを平均化

その他	FFT解析、またはオクターブ解析したアイテムのフレームグラフデータを加算平均が可能
-----	---

解析結果ファイル内演算

概要	解析結果のファイル内で複数Itemの四則演算が可能
対応する解析データ	FFT解析、FFTトラッキング解析、オクターブ解析、オクターブトラッキング解析

リプレイ解析(計測モードのみ)

概要	収録した時系列データを使用し、計測モードでリアルタイム計測している状態を再現できる機能
その他	リプレイ解析対象の時系列データの区間設定が可能
	リプレイ解析の再生速度を0.25~2.0倍の範囲で設定が可能 リプレイ解析の再生位置に合わせてスコアウィンドウのカーソルを追従させることが可能

デジタルフィルター機能(OS-0521)
FIRフィルター(解析モードのみ)

処理区間	全区間もしくは任意に設定した区間	
プレビュー設定	フレーム長	128 / 256 / 512 / 1024 / 2048 / 4096 / 8192 / 16384 / 32768 / 65536
	平均処理	加算平均処理(回数)
	Smooth機能	Type1/Type2
周波数範囲	フィルターの下限および上限周波数を任意に設定可能	
レベル設定	任意のレベルで増減が可能 ・上下限値は、±100 dBです 直線補完によるフィルターに傾斜を付けることが可能	

IIRフィルター パラメトリックイコライザー(解析モードのみ)

フィルター	適用	周波数および次数
	フィルター数	最大20個
	フィルター種類	PE/ HPF / BPF / BR / LPF
レベル調整	レベル調整	任意で調整が可能 ・上下限値は、±40 dBです
	フィルター形状の調整	Q値 任意値を設定可能 ・上下限値として0.01~100です
	ハーモニック	N次周波数(次数)に対して同時に処理が可能
フィルター形状の調整 (BPF、BRF)	Pole	1~10
フィルター形状の調整 (HPF、LPF)	1 / N OCT	0.1~24
	Pole	1~10
回転速度範囲	~38,400 r/min	

IIRフィルター グラフィックイコライザー(解析モードのみ)

フィルター	適用	【1/3オクターブの周波数帯域】 20 / 25 / 31.5 / 40 / 50 / 63 / 80 / 100 / 125 / 160 / 200 / 250 / 315 / 400 / 500 / 630 / 800 / 1 k / 1.25 k / 1.6 k / 2 k / 2.5 k / 3.15 k / 4 k / 5 k / 6.3 k / 8 k / 10 k / 12.5 k / 16 k / 20 kHz
	フィルター数	31個
	レベル調整	任意で設定が可能 ・調整可能範囲は、±40 dBです ・0.1 dB刻みで設定できます

FFT解析機能(OS-0522)

計測チャンネル数	【計測モード】	3~240ch
	【解析モード】	インポートした時系列データに対して実行
		1~20ch: 40 kHz 21~120ch: 20 kHz 121~240ch: 10 kHz 1~4ch(100 kHz入力ユニット使用時): 100 kHz
解析可能最大周波数レンジ	【計測モード】	512点(200ライン)~32768点(12800ライン)
	【解析モード】	512点(200ライン)~524288点(204800ライン)
FFTサンプリング点数(スペクトルライン数)	【計測モード】	40 kHzユニット : 1 Hz~40 kHz 100 kHzユニット: 1 Hz~100 kHz
	【解析モード】	・3.9 μHz~39 GHz (サンプリング周波数に依存) ・オーディオサンプリング時 1.56 kHz~37.5 kHz
解析周波数レンジ	Rectangular Hanning Hamming Flat-Top Blackman-Harris Exponential Force	
周波数ズーム解析	DS-5000シリーズ データステーションにて設定可能な解析周波数レンジに限る	
窓関数		

微積分機能	1階微分、2階微分 1重積分、2重積分
密度計算	PSD、ESD
平均化機能	時間軸加算平均・指数平均 パワースペクトル加算・指数平均 パワースペクトルピークホールド パワースペクトルスweep パワースペクトルMax O. A. フーリエスペクトル加算・指数平均 フーリエスペクトルMax O. A.
演算関数(時間軸)	時間波形(1フレーム) 自己相関関数 相互相関関数 インパルスレスポンス ヒルベルト変換
演算関数(周波数軸)	パワースペクトル フーリエスペクトル クロススペクトル 周波数応答関数 コヒーレンス関数 束ねオクターブ解析(1/1、1/3)
周波数重み	A特性、C特性、ユーザー定義
オーバーラップの設定(%)の指定)	90 %、75 %、66.7 %、50 %、25 %、0 %
オーバーラップの設定(サンプル数の指定)	任意設定
時間間隔の指定(オーバーラップを時間で指定する機能)	0.1 s/0.2 s/0.5 s/1 s/2 s/5 s/10 s/20 s/30 s/ 1 min/2 min/5 min/10 min
特殊グラフ	ナイキスト線図、オービット線図、モード円、トリパタイトグラフ
周波数応答関数の演算機能	関数タイプ(H1/H2) ループ機能(開閉ループ) 逆演算
その他	位相アンラップ ノイズ除去フィルター チャンネル間ディレイ

トラッキング解析機能(OS-0523)※9

共通スペック	
トラッキング方法	回転、定時間
回転速度範囲	30~260,000 r/min 上限と下限値は、ベースサンプリングクロック数の設定によって変わります。
回転スロープ	上昇 / 下降 / 連続上昇下降
表示トラッキング線図本数	24本 ・演算時に24本まで登録
トラッキング三次元表示	三次元アレイ表示(モノクロ/カラー) カラーマップ表示
その他機能	任意単位設定(横軸)

FFTトラッキング(OS-0522&OS-0523)

データ種類	パワースペクトル、フーリエスペクトル、クロススペクトル
サンプリング点数(スペクトルライン数)	512点(200ライン)~32768点(12800ライン)
分析次数	6.25次~3200次(6.25/ 12.5/ 25/ 50/ 100/ 200/ 400/ 800/ 1600/ 3200)任意に次数設定可能
最大ブロック数	5,000
その他機能	マルチ解析対応(定幅と定比同時解析) キャンベル線図 オフセットトラッキング ファイル平均機能 リスタート機能 モード円

オクターブトラッキング(OS-0523&OS-0524)

データ種類	1/1オクターブ、1/3オクターブ、1/6オクターブ、1/12オクターブ、1/24オクターブ
最大ブロック数	10,000

※9 OS-0523トラッキング解析機能は、OS-0522もしくはOS-0524が必要です。

オクターブ解析機能(OS-0524)	
計測チャンネル ^{※10}	3~40ch (周波数レンジ 25 kHz) 3~48ch (周波数レンジ 20 kHz) (単筐体及び筐体間接続時)
オクターブ種類	1/1、1/3、1/6、1/12、1/24オクターブ (フィルター: 6次バターワース) JIS C 1513-1: 2020 (IEC 61260-1:2014) クラス1のフィルター JIS C 1514: 2002 クラス1
時定数	None 10 ms 35 ms 125 ms (FAST) 630 ms 1 s (SLOW) 8 s IMPULSE
解析周波数レンジ ^{※11}	1/1オクターブ: 1~16 kHz (40ch) 1/3オクターブ: 0.8~20 kHz (40ch) 1/6オクターブ: 0.75 Hz~21.1 kHz (30ch) 1/12オクターブ: 0.73 Hz~21.8 kHz (24ch) 1/24オクターブ: 0.72 Hz~22.1 kHz (12ch)
音響フィルター	A、C、G、Vv、Vh、Vhand ユーザー定義フィルター (csv形式)
最大ブロック数	4,000 (トラッキング解析機能使用時)
表示演算値	瞬時値 最大値ホールド 最小値ホールド パワー平均値 パワー合計値
パワー演算時間	0~24 h
時間率レベル演算機能 (Lx)	L1、L5、L10、L50、L90、L95、L99
その他機能	タイムトレンドの表示 チャンネル間演算

※10 外部入力chを含む。1/Nオクターブ解析を実行する場合は25 kHzに設定する必要があります。

※11 ()内は、計測モードで周波数レンジ25 kHzで設定したときの最大上限ch数です。

音質評価機能(OS-0525)	
データ種類	ISO532-1 定常音ラウドネス ISO532-1 非定常音ラウドネス 非定常音ラウドネス ラウドネス 変動強度 トーンリテ シャープネス [DIN45692、 Aures、Bismarck] CI (Comfort Index) TNR (Tone-to-Noise Ratio) PR (Prominence Ratio)
時間率ラウドネス	5 %、10 %、95 %
時間率シャープネス	50 %
音場	自由、拡散

変動音解析機能(OS-0526)	
変動音解析	
データ種類	変動音Core、変動音Mask ラウドネス変動Core ラウドネス変動Mask
変動周波数	0.5~200 Hz
オーバーラップ	【%指定】 0 %、25 %、50 %、75 % 【時間指定】 変動周波数の下限値に依存 (最大3998 ms)
音場	自由、拡散
変動音シミュレーター	
出力タイプ	加工 (変動している部分を除去) 抽出 (変動している部分のみ抽出)
変調倍率	0~5倍
変動音基準値	0~1

時間周波数解析機能(OS-0527)	
短時間フーリエ変換	
周波数分解能	0.001~100000 Hz
窓関数	Rectangular Hanning Hamming Flat-Top Blackman-Harris
窓関数長	512~1048576点
微積分機能	1階微分、2階微分、1重積分、2重積分
周波数重み付け	A、C、ユーザー定義 (CSV形式)

ウェーブレット変換	
ガボール関数	1/3オクターブ 1/6オクターブ 1/12オクターブ 1/24オクターブ
解析周波数範囲	1オクターブ~12オクターブ

統計解析機能(OS-0531)	
ヒストグラム	
オートスケール	-1.797693e+308~1.797693e+308
スライスレベル	分割数で指定 2~1000000 (10 / 20 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100) 分割サイズで指定 分割サイズが2以上となる値
密度計算	確率密度、累積密度

自己相関	
サンプル点数	2~1000000 (10/50/100/500/1000/5000)
オーバーラップ	パーセント 0~99 % (90 %、75 %、66.7 %、50 %、25 %、0 %) サンプル数 サンプル点数未満
最大ラグ	1~サンプル点数/2以下
DCキャンセル	○
信頼区間 (95 %)	○

相互相関	
サンプル点数	2~1000000 (10/50/100/500/1000/5000)
オーバーラップ	パーセント 0~99 % (90 %、75 %、66.7 %、50 %、25 %、0 %) サンプル数 サンプル点数未満
最大ラグ	1~サンプル点数/2以下
DCキャンセル	○
信頼区間 (95 %)	○

散布図 (回帰分析)	
回帰分析	最小二乗法

ステレオグラム	
オートスケール	-1.797693e+308~1.797693e+308
X軸スライスレベル	分割数で指定 2~1000000 (10 / 20 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100) 分割サイズで指定 分割サイズが2以上となる値
オートスケール	-1.797693e+308~1.797693e+308
Y軸スライスレベル	分割数で指定 2~1000000 (10 / 20 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100) 分割サイズで指定 分割サイズが2以上となる値

区間統計		
スライスレベル	オートスケール	-1.797693e+308~1.797693e+308
	分割数で指定	2~1000000 (10 / 20 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100)
統計タイプ	分割サイズで指定	分割サイズが2以上となる値
	合計値、平均値	

3次元区間統計		
X軸スライスレベル	オートスケール	-1.797693e+308~1.797693e+308
	分割数で指定	2~1000000 (10 / 20 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100)
Y軸スライスレベル	分割サイズで指定	分割サイズが2以上となる値
	オートスケール	-1.797693e+308~1.797693e+308
統計タイプ	分割数で指定	2~1000000 (10 / 20 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100)
	分割サイズで指定	分割サイズが2以上となる値
統計タイプ	合計値、平均値	

動画再生機能 (OS-0532)		
データインポート形式	AVIファイル / MP4ファイル / MOVファイル / WMVファイル / M4Aファイル	
対応フレームレート	~1000 fps	
最大モニター数	1ウィンドウ4画面 (最大2ウィンドウまで)	
対応コーデック ^{※1}		
拡張子	コーデック	
AVI	動画	DV (Digital Video) / Microsoft Video 1 / Motion JPEG / MPEG-4 part 2 / H.263 / H.263+ / H.264/AVC
	音声	AAC / MP2 / MP3 / PCM
WMV	動画	Windows Media Video 7 / Windows Media Video 8 / Windows Media Video 9 (VC-1)
	音声	Windows Media Audio 1 / Windows Media Audio 2
MOV	動画	Apple ProRes / MPEG-4 part 2 / H.263 / H.263+ / H.264/AVC
	音声	AAC / ALAC / MP3 / PCM
MP4	動画	AV1 / MPEG-2 video / MPEG-4 part 2 / H.264/AVC / VP8 / VP9 / VC-1
	音声	AAC / AC-3 / MP3
M4A	音声	AAC / AC-3 / MP2 / MP3

※1 動画形式 (コーデックやエンコード方式など) によっては、対応できないファイルがあります。

音圧法音響パワーレベル(OS-0541) ^{※2}	
対応規格	【自由音場、反射面上の準自由音場】 ISO 3744: 2025 ISO 3744: 2010 ISO 3745: 2012 ISO 3746: 2010 ISO Z 8732: 2021 JIS Z 8733: 2000 【拡散音場 (比較法のみ対応)】 ISO 3741: 2010 JIS Z 8734: 2021 【高周波 (離散音を含まない広帯域音源のみ対応)】 ISO 9295: 2015
測定表面	半球、平行六面体、その他
演算項目	A特性音響パワーレベル L_{WA} 指向性指数 D_i 面上音圧レベル不均一指数 V_1 時間平均音圧レベル L_p 音圧レベル範囲 暗騒音補正值 $K_1、K_{11}、K_{1A}$ 環境補正值 $K_2、K_{2A}$ (絶対比較法、直接法、2重表面測定法、概算法に対応) 気象補正值 $C_1、C_2、C_3$ 暗騒音とのレベル差 $\Delta L_p、\Delta L_{p1}$ 暗騒音に関する基準 (相対判定、絶対判定)
解析周波数範囲	1/3オクターブ: 50 Hz~20 kHz 0.8 Hzまで低域拡張可能* 1/1オクターブ: 63 Hz~16 kHz 1 Hzまで低域拡張可能* * 低域拡張はISO 3744、3745のみ対応します。
解析ch数	1~40ch
ファイルインポート形式	DATX
ファイルエクスポート形式	XLSX (帳票ファイル) LWDATX (バイナリファイル)
音圧レベル分布	半球、平行六面体の測定表面のみ対応
解析種類	【規格準拠の音響パワーレベル】 オクターブ解析 (1/1、1/3のみ) 【FFTや瞬時の音響パワーレベル (参考値) ^{※3} 】 オクターブ解析 (1/1、1/3のみ) FFT解析 FFTトラッキング解析 (定幅のみ)
必須ソフトウェア	Microsoft* Excel 2016、2019またはOffice 365

放射音計測オプション (情報技術装置) (OS-0542) ^{※4}	
対応規格	【情報技術装置の音響パワーレベル】 ISO 7779: 2018、JIS X 7779: 2012 【放射音圧レベル】 ISO 11201: 2010 【放射騒音表示値】 ISO 9296: 2017
演算項目	・A特性音響パワーレベル L_{WA} ・A特性放射音圧レベル L_{pA} オペレータ位置 (最大2点) バイスタンダ位置 (最大8点) ・放射騒音表示値 表示A特性音響パワーレベル $L_{WA,m}$ 表示A特性放射音圧レベル $L_{pA,m}$ 検証用統計加算値 K_v ・顕著な離散音 (TNR、PR) ^{※5}

※2 OS-0524が必要です。

※3 OS-0522またはOS-0523が必要です。

※4 OS-0541が必要です。

※5 OS-0525のTNR、PRと同機能です。

動作環境	
共通スペック	
インタフェース	LAN端子 1000base-T ※TCP/IPv6有効が必須
OS	Microsoft® Windows® 10 Pro (64 bit版) Microsoft® Windows® 11 Pro (64 bit版) Microsoft® Windows® 11 Enterprise LTSC (64 bit版) ・Windows® 11 Enterpriseは、標準設定(標準ポリシー設定下)の Windows®環境にて動作確認を行っています。 セキュリティ設定やグループポリシーの変更、サードパーティ製セキュリティソフトウェアの導入など、標準設定から変更された環境での動作は保証対象外です。 そのため対応は限定的なサポートにとどまる場合があります。
必須ソフトウェア	.NET 8.0 Desktop Runtime ・O-Solutionのインストーラーに含まれています
光学ドライブ	DVD-R (DVDを用いたインストール及びアップデートする時)
メモリ	16 GB以上
ストレージ	・ディスク容量 32 GB以上の空き ・外付けSSDを保存先にする場合は USB3.2(Gen1)/USB3.1(Gen1)/USB3.0ポートが必要
ディスプレイ	1920×1080以上

推奨スペック① 96ch以下の計測、データの収録を行う場合	
CPU	IntelCore i7 第8世代以降のインテル® Core™プロセッサ 4コア8スレッド以上 ベースクロック周波数1.8 GHz以上
推奨スペック② 96ch以上の計測、データの収録を行う場合	
CPU	IntelCore i7 第8世代以降のインテル® Core™プロセッサ 6コア12スレッド以上 ベースクロック周波数2.5 GHz以上
動作確認済み 外付けSSD	
最新情報は弊社HPをご覧ください	

オプション一覧

ソフトウェア オプション

型名	品名
OS-5100	プラットフォーム
OS-0521	デジタルフィルター機能
OS-0522	FFT解析機能
OS-0523	トラッキング解析機能
OS-0524	オクターブ解析機能
OS-0525	音質評価機能
OS-0526	変動音解析機能
OS-0527	時間周波数解析機能
OS-0531	統計解析機能
OS-0532	動画再生機能
OS-0541	音圧法音響パワーレベル
OS-0542	放射音計測オプション(情報技術装置)
OS-0510	外部コントロール機能(OS-5100用)
OS-0512	ハードウェア接続機能(1ユニット)
OS-4100	周波数応答計測ソフトウェア
OS-0410	外部コントロール機能(OS-4100用)
OT-0450	損失係数算出ツール(OS-4100用)

・多くの教育機関の皆様にご使用いただけるようアカデミック価格を用意しております。詳細は弊社営業所へお問い合わせ下さい。

・3種類のライセンス形態をご用意しています。
スタンダードローン、ネットワークライセンス、USBライセンスキー(有償)から用途に合わせて選ぶことができます。
OS-4100はネットワークライセンス未対応です。

・ネットワークライセンスは、サブスクリプションプランのみになります。

ハードウェア オプション

型名	品名
DS-5100	メインユニット
DS-0523	3ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット
DS-0532	2ch 100 kHz 入力ユニット
DS-0534	4ch 100 kHz 入力ユニット
DS-0542	2ch 外部入力ユニット
DS-0543	2ch 外部入力 & 1ch 信号出力ユニット
DS-0544	4ch 外部入力ユニット
DS-0545	2ch 信号出力ユニット
DS-0501	バッテリーユニット
DS-0502	電源連動機能

セット価格(税抜き)

		FFTセット	オクターブセット	トラッキングセット	SVセット
DS-0523	3ch 40 kHz 入力ユニット	¥1,490,000	¥1,590,000	¥1,690,000	¥2,140,000
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット	¥1,750,000	¥1,850,000	¥1,950,000	¥2,400,000
DS-0532	2ch 100 kHz 入力ユニット	¥1,960,000	¥2,060,000	¥2,160,000	¥2,560,000
DS-0534	4ch 100 kHz 入力ユニット	¥2,400,000	¥2,500,000	¥2,600,000	¥3,000,000
型名	品名	DS-5000			
DS-5100	メインユニット	●	●	●	●
上記	入力ユニット	●	●	●	●
DS-0542	2ch 外部入力ユニット	—	—	●	—
DS-0543	2ch 外部入力 & 1ch 信号出力ユニット	—	—	—	●
O-Solution					
OS-5100	プラットフォーム	●	●	●	●
OS-0521	デジタルフィルター機能	—	—	—	—
OS-0522	FFT解析機能	●	●	●	●
OS-0523	トラッキング解析機能	—	—	●	●
OS-0524	オクターブ解析機能	—	●	—	●
OS-0512	ハードウェア接続機能	●	●	●	●

		周波数応答計測&FFTセット	周波数応答計測セット
DS-0523	3ch 40 kHz 入力ユニット	¥2,540,000	¥2,140,000
DS-0526	6ch 40 kHz 入力ユニット	¥2,800,000	¥2,400,000
DS-0532	2ch 100 kHz 入力ユニット	¥2,600,000	¥2,200,000
DS-0534	4ch 100 kHz 入力ユニット	¥3,040,000	¥2,640,000
型名	品名	DS-5000	
DS-5100	メインユニット	●	●
上記	入力ユニット	●	●
DS-0545	2ch 信号出力ユニット	●	●
ソフトウェア			
OS-5100	プラットフォーム	●	—
OS-0522	FFT解析機能	●	—
OS-0512	ハードウェア接続機能	●	●
OS-4100	周波数応答計測ソフトウェア	●	●
OS-0410	外部コントロール機能(OS-4100用)	●	●

・ACアダプター、通信用LANケーブルは、DS-5100に付属しています。セット価格にシステムアッセンブリ費、OS-0512 各1式は含まれています。
ただし、ユニットを追加する場合はOS-0512(1式/1ユニット)とシステムアッセンブリ費(¥50,000/1ユニット)が必要です。

・セット内容の変更については、最寄りの営業所へお問い合わせください。

ソフトウェア パック価格

(ソフトウェアを組み合わせたお得なパックプラン)

型名	品名	FFT解析パック	音質評価パック	変動音解析パック
型名		OS-5120	OS-5150	OS-5160
価格(税抜き)		¥700,000	¥2,200,000	¥4,000,000
型名	品名	ライセンス		
OS-5100	プラットフォーム	●	●	●
OS-0521	デジタルフィルター機能	●	●	●
OS-0522	FFT解析機能	●	●	●
OS-0524	オクターブ解析機能	—	●	●
OS-0525	音質評価機能	—	●	●
OS-0526	変動音解析機能	—	—	●

O-Solution サブスクリプション

- 特長1 魅力的な価格で使用できる 高価なオプション機能も低価格で使用可能
- 特長2 常に最新バージョンが使える 契約期間中は最新バージョンの使用可能
- 特長3 様々なサービスを受けられる 便利ツールの使用、セミナーや操作方法の動画閲覧が可能

サブスクリプションは必要な時に、魅力的な価格でソフトウェアを提供するサービスです。期間限定ライセンスとサービスが、一緒になった新しい購入形態で常に最新バージョンをご使用いただけます。

プラン		Basic	Standard	Professional
型名		OS-5340	OS-5350	OS-5360
期間		12か月	12か月	12か月
価格(税抜き)		¥220,000	¥600,000	¥1,200,000
型名	品名	ライセンス		
OS-5100	プラットフォーム	●	●	●
OS-0521	デジタルフィルター機能	—	●	●
OS-0522	FFT解析機能	●	●	●
OS-0523	トラッキング解析機能	—	●	●
OS-0524	オクターブ解析機能	—	●	●
OS-0525	音質評価機能	—	—	●
OS-0526	変動音解析機能	—	—	●
OS-0527	時間周波数解析機能	—	●	●
OS-0531	統計解析機能	—	●	●
OS-0532	動画再生機能	—	●	●
OS-0510	外部コントロール機能	—	●	●
OS-0512	ハードウェア接続機能	●	●	●
OS-0541	音圧音響パワーレベル	—	●	●
OS-0542	放射音計測オプション	—	—	●

- サポートページにログインすることで各種マニュアル、操作手順書、便利ツールのダウンロードができます。
- セミナー動画の公開時期等の詳細は別途お知らせします。但し、状況によってはご希望に添えない場合があります。予めご了承下さい。
- O-Solution サブスクリプションのライセンスは、スタンダードまたはネットワークライセンス(共にライセンスキーレス)にて提供します。
- 途中解約による返金はできません。
- プランの途中変更は可能です。別途、費用がかかる場合があります。詳細は弊社営業所へお問い合わせ下さい。
- O-Solution サブスクリプションは、多くの教育機関の皆様にご使用いただけるようアカデミック価格を用意しております。詳細は弊社営業所へお問い合わせ下さい。

DS-5000特別価格 (O-Solution サブスクリプション専用)

		3ch 40 kHzシステム
特別価格(税抜き)		¥550,000 ¥1,070,000
DS-5100	メインユニット	●
DS-0523	3ch 40 kHz 入力ユニット	●

- サブスクリプション契約のお客様には、DS-5000を特別価格にて提供します。
- システムアクセサリ費は含まれています。
- 3chから6chに変更する場合は、DS-0526とDS-0523の差額にて提供します。
- DS-5000 特別価格は、1台につきO-Solutionサブスクリプションを新規に1契約が必要です。同時発注もしくは、1カ月以内にO-Solutionサブスクリプションをご契約して頂く必要があります。
- ハードウェアは買取です。
- chを増設したい場合は、最寄りの営業所までお問い合わせ下さい。

「O-Solution年間サポート」はお客様に、より満足いただけるサービスを提供する1年更新のサポート制度です。サポート期間中は、最新バージョンに追加される新機能がご使用できます。また、専用サポートページやその他特典もご用意しています。

最新版の追加機能

最新バージョンに追加される新機能をご使用できます。

専用サポートページ

手順書のダウンロードや有償セミナーの期間限定視聴などがご利用できます。また、サポートページ内にあるカスタマーサクセスサイトからO-Solutionが使いやすいくなるTipsなども紹介しています。
※ ご利用にはEID登録が必要です

Tips紹介

便利な操作を動画で知り、計測・解析作業の効率が向上します。

TIPS

- データの効率的なインポート
- データの効率的なエクスポート
- データマネージャーのTips
- スコープウィンドウのTips
- グラフウィンドウのTips
- 計測マネージャーのTips
- 計測ツールバーのTips

計測マネージャーのTips

複数のCHをまとめてレイアウトを指定して表示する
Shift+クリックで複数グラフを選択し、右クリックメニューからグラフへ順に追加することができます。

スコープウィンドウのTips

時系列データの音を再生する
トラックにある「L」ボタンを押下することで、時系列データを音として再生することができます。

操作手順動画

はじめてでも安心して操作方法を確認できます。

ハンマリング試験
O-Solution&DS-5000 設定手順

FFTトラッキング解析
O-Solution&DS-5000 設定手順

音質評価・変動音解析
～O-Solution設定・解析手順～

年間サポート費

O-Solutionソフトウェア価格 × 10 %
※ 未サポート期間がある場合別金額となります
※ OS-0512 ハードウェア接続機能は、年間サポート費に含まれません

※Microsoft® Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

お客様へのお願い ■ 輸出または国外へ持ち出す際のご注意
当社製品(役務を含む)を輸出または国外へ持ち出す場合は、外為法(外国為替及び外国貿易法)の規定により、リスト規制該当品であれば、経済産業大臣へ輸出許可申請の手続きを行ってください。なお、非該当品であってもキャッチオール規制に該当する場合は、経済産業大臣へ輸出許可申請が必要となります。当社製品の該非判定書をお求めの際は、当社ホームページの該非判定書発行依頼ページよりご依頼ください。お問い合わせは、最寄りの当社営業所または当社総務グループ(045-935-3888)までご連絡ください。

●記載事項は変更になる場合がありますので、ご注文の際はご確認ください。 ⚠️注意 ●機器を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。
●価格に変更になる場合がありますので、ご注文の際はご確認ください。

●代理店・販売店

株式会社 小野測器

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-3-3 横浜コネクストスクエア12階
TEL (045) 935-3888

お客様相談室 フリーダイヤル 0120-388841
受付時間：9:00～12:00 / 13:00～18:00(土・日・祝日を除く)

北 関東 (028) 684-2400 浜 松 (053) 462-5611 九 州 (092) 432-2335
埼 玉 (048) 474-8311 中 部 (0565) 41-3551 海 外 (045) 514-2603
首 都 圏 (045) 935-3838 関 西 (06) 6386-3141
沼 津 (055) 988-3738 広 島 (082) 246-1777

ホームページアドレス | <https://www.onosokki.co.jp/>
E-mailアドレス | webinfo@onosokki.co.jp

